

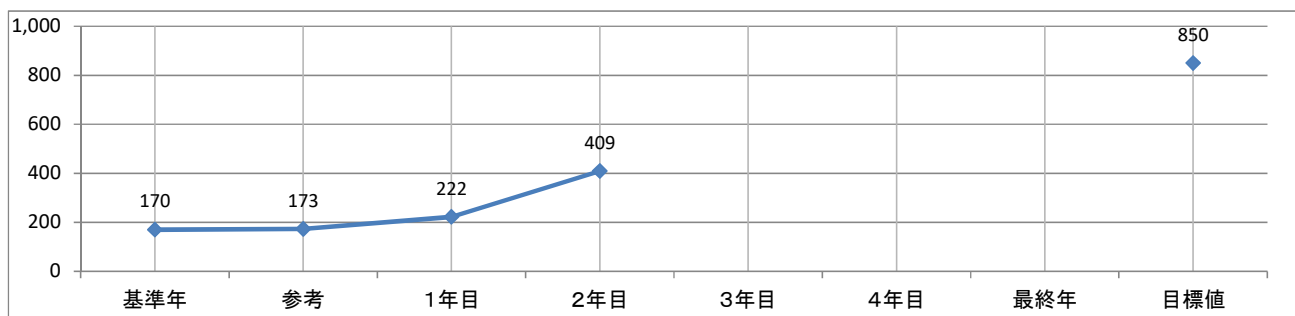
6. 基本施策

展開方向	項目	評価
1	ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保	A
2	地域農業を支える力強い経営体の育成	A
3	農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化	B
4	農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進	A
5	ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化	B
6	国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立	B
7	地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開	B
8	D Xを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進	A
9	農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化	B
10	県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大	B
11	農畜産物等の輸出促進による販路拡大	B
12	食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上	B
13	安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供	B
14	歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興	B
15	資源循環を目指した環境保全型農業の推進	B
16	誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化	A
17	官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化	B
18	「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化	A
19	農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮	A

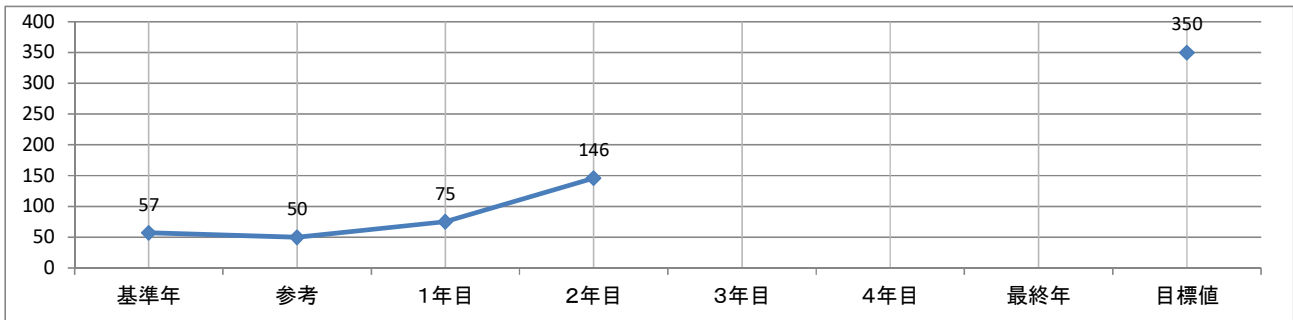
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保		
推進内容	①新規就農に向けた支援の拡大 ②人材育成のための農業教育の充実 ③農外からの企業参入の推進 ④農業を支える人材の確保		
担当課	農業構造政策課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・就農相談については、コロナ禍に対応するためにオンラインによる就農相談窓口の整備(13ヶ所)や就農イベント参加(7回)の取組を行った。また、希望者には農業体験事業・就農留学事業を実施した。(成果 相談者:357人:延べ相談件数586件、新規就農者45歳未満:222人) ・「高校生のための農林業チャレンジセミナー」を実施し、高校生の就業・就農意識醸成に努めた。(成果 高校生参加者25人) ・農外からの企業参入については、13件の相談を受け、新たな担い手の確保に努めた。相談対応のうち1件が参入、2件が参入に向けて調整を行っている。 ・多様な人材確保に係る農福連携を推進し、特別支援学校生徒の現場実習を支援し、特別支援学校生徒1名が農業法人に就農した。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・新規就農者や担い手の確保に向けて、就農イベント出展等を行った(9回)。また、就農希望者には農業体験事業・ファームトレーニング事業を実施した。農業体験事業では、受入れ農家に有機農業者を追加し、有機農業を志望する相談者への対応を強化した。(相談者:368人:延べ相談件数583件、新規就農者45歳未満:187人) ・農外からの企業参入に関する相談を12件受けた。相談対応のうち1件が調整中であり、令和3年度からの継続案件2件が企業参入となった。 【課題】 ・施設園芸での就農を希望する相談者が、資材費高騰の影響により初期投資が比較的少ない露地野菜等で就農する場面が発生している。 ・有機農業での就農希望者に対して、研修等を受入れられる産地は限られており、他産地での受入れ体制を整備する必要がある。 ・企業参入については、実現可能な事業計画の作成に至らないケースが多いため、計画作成段階からのサポートが必要である。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

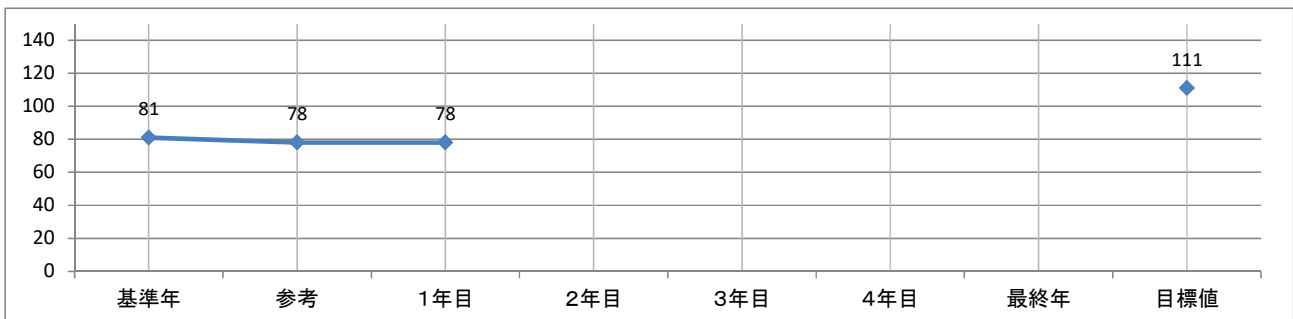
目標指標①		新規就農者数(45歳未満)(令和3年度からの累計数)						指標の単位	人	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	最終年	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	170	173	222	409				850	
	計画		-	170	340					



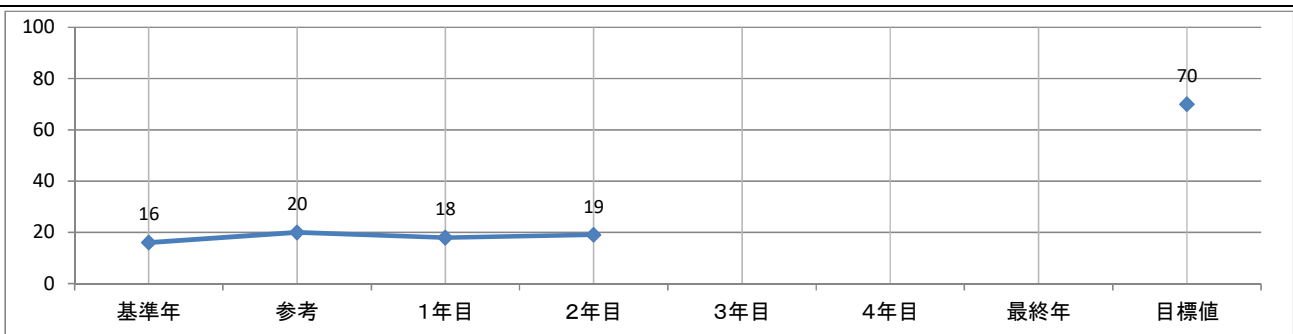
目標指標②		新規就農者数(45以上65歳以下)(令和3年度からの累計数)							指標の単位		人
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	57	50	75	146						350
計画		-	70	140							



目標指標③		農外からの企業参入件数(年度別稼働数)							指標の単位		件
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	81	78	78	R5.8月頃公表						111
計画		-	87	93							



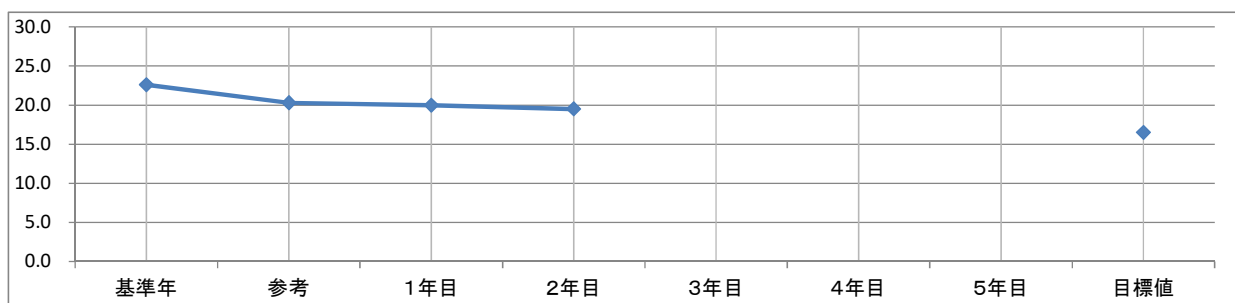
目標指標④		農福連携(共同受注窓口)利用農業者数(年度別)							指標の単位		戸
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	16	20	18	19						70
計画		-	30	40							



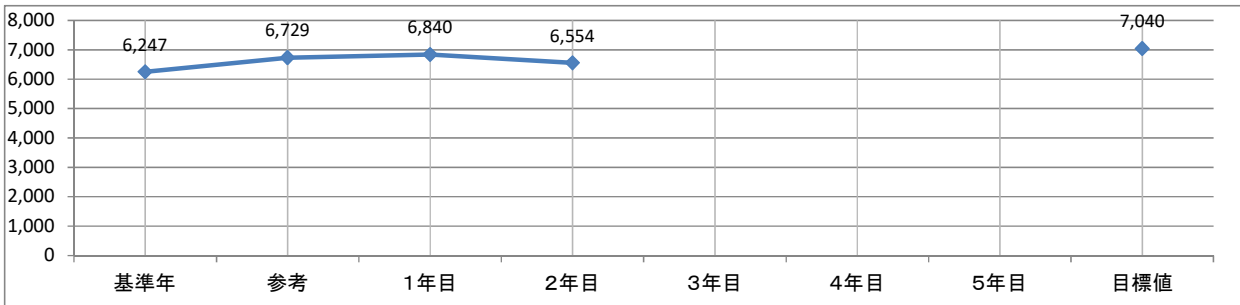
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】	
展開方向	地域農業を支える力強い経営体の育成	
推進内容	①力強い担い手の育成 ②地域農業のリーダー育成と活動促進 ③女性農業者の活躍促進	
担当課	農業構造政策課	
各年度の実績動向	年度	達成状況
	R3 (1年目)	B 【成果】 ・認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から279経営体(県244、国35)に増加、R3末までに、200経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。また、集落営農組織等の経営基盤の強化を進めるため、県内の集落営農組織を対象としたアンケート調査を実施し、現状や課題を整理した。 ・農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、次代を担い地域農業のリーダー育成のため「農業青年実績発表会・リーダー研修会」を開催した(成果:経営士10人、アドバイザー7人、青年農業士20人新規認定)。また、「ぐんま農業フロントランナー養成塾」を開催し、将来の地域農業を担う経営感覚に優れた人材の育成に取り組み、20名の卒業生を輩出することができた(H24以降、のべ289名の卒業生を輩出)。 ・継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めました(成果:全国表彰事業「R3年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、農山漁村男女共同参画推進協議会長賞受賞1名)。
	R4 (2年目)	A 【成果】 ・認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から364経営体(県316、国48)に増加、令和4年度末までに、350経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。 ・農業の課題解決に向けて、新たに農業経営体とスタートアップ企業とのマッチングを進めたところ、15件のマッチング成果を得た。マッチングした農業経営体とスタートアップ企業のうち一部は、令和5年度から実施する課題解決実証に取り組む見通しである。 ・優良経営体表彰において、県内生産者(1名)が農林水産大臣賞を受賞した。 ・農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、農福連携をテーマにトップリーダー研修会を開催した(経営士8人、アドバイザー8人、青年農業士15人新規認定)。 ・継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めた。(全国表彰事業「令和3年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、経営局長賞1団体)。 【課題】 ・持続的な食料システムの構築に向けて、環境負荷の低減に向けた地域のモデル的な取組の創出やその横展開が図られるよう、マッチングした農業経営体とスタートアップ企業による現地実証を進めていく必要がある。
	R5 (3年目)	【成果】 【課題】
	R6 (4年目)	【成果】 【課題】
	R7 (最終年)	【成果】 【課題】

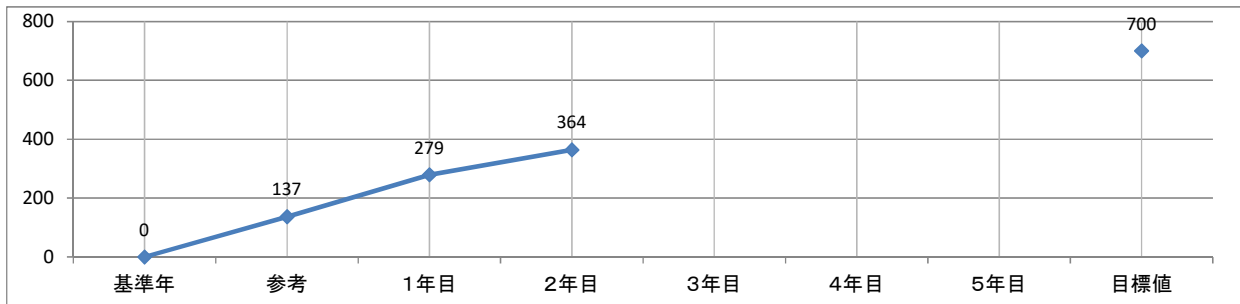
目標指標①		販売農家数						指標の単位	千戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		22.6	20.3	20.0	19.5				16.5
計画			-	20.2	19.6					



目標指標②		担い手数(年度末時点)						指標の単位	経営体	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	6,247	6,729	6,840	6,554				7,040	
計画		-	6,490	6,620						



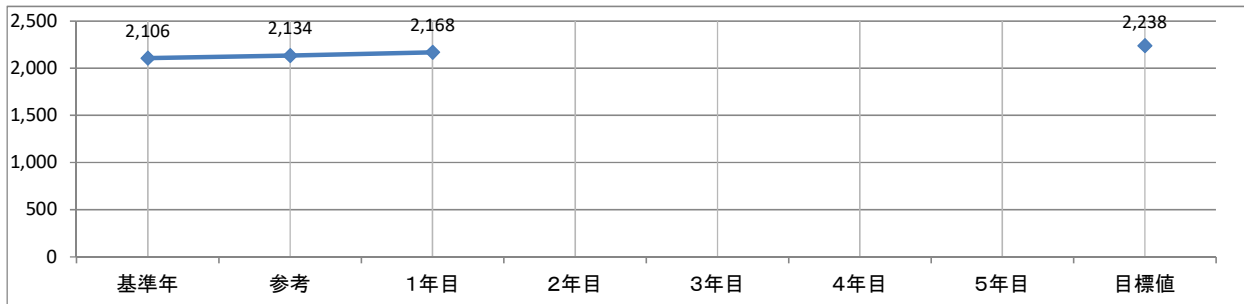
目標指標③		県・国による認定農業者数(県・国認定開始(R2年度)からの累計数)						指標の単位	者	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	0	137	279	364				700	
計画		-	200	350						



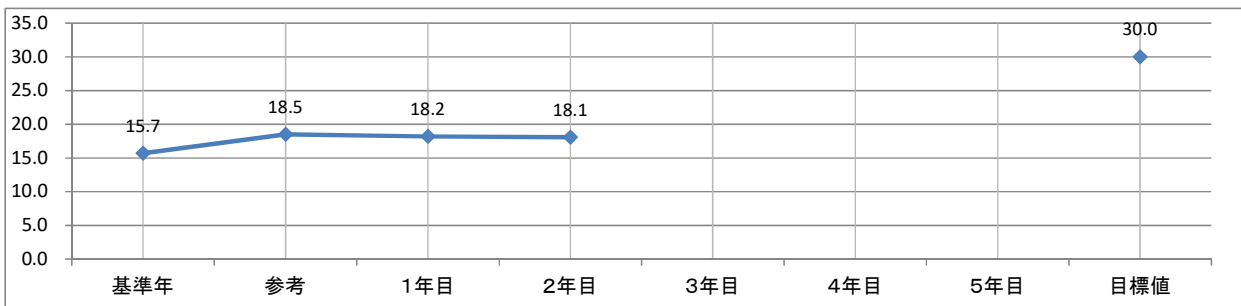
目標指標④		集落営農組織数(年度末時点)						指標の単位	組織	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	134	133	130	R5.12月頃公表				140	
計画		-	137	138						



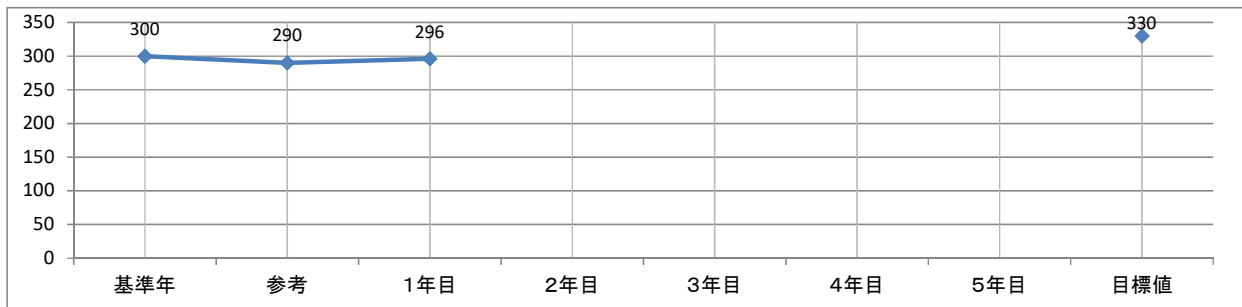
目標指標⑤		家族経営協定締結数(年度末時点)							指標の単位	戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	2,106	2,134	2,168	R5.8月頃公表						2,238
計画		-	2,150	2,172							



目標指標⑥		農業委員に占める女性比率(年度末時点)							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	15.7	18.5	18.2	18.1						30.0
計画		-	18.7	20.7							



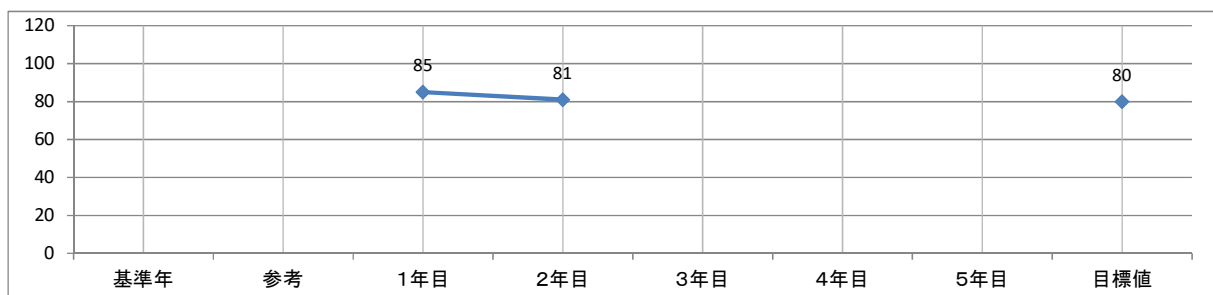
目標指標⑦		農村女性起業数(年度末時点)							指標の単位	件	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	300	290	296	R5.9月頃公表						330
計画		-	310	315							



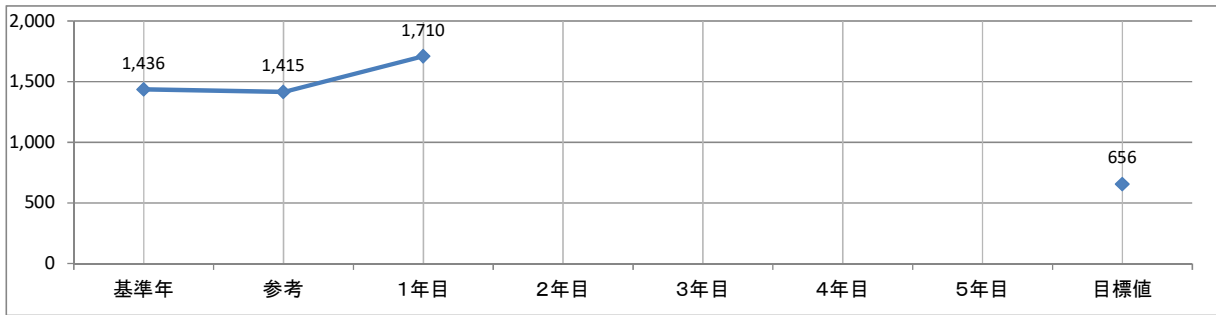
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	農地利用の最適化と生産基盤の整備		
推進内容	①地域計画の策定と実現支援 ②遊休農地の発生抑制と再生支援 ③農地制度による優良農地の確保 ④生産基盤整備の推進		
担当課	農業構造政策課、農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人・農地プランの実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、226から244プラン(+18)に増加した。これにより、実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合は85%になり、目標としている80%を超える結果となった。 農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地の出し手対策である経営転換協力金は93戸、30haの実績となり、遊休農地解消(再生支援)については、7地区、2.2haで支援した。 農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。その結果、除外面積約187haについて同意した。 上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。(実績は9月公表予定)
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人・農地プラン」の実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、244プランから4プラン増加し、248プランとなった。一方、実質化された「人・農地プラン」に基づき取組を実践している地区(集落)の割合は81%になり、目標としている80%を超える結果となった。 農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地中間管理機構によって約192haの農地が新たに担い手に集積された。遊休農地解消(再生支援)については、6地区、2.8haで支援した。 農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。令和4年度は5年に1度の基礎調査に基づく見直しにより山林化した農地などの除外が約1,113haがあったため、除外全体面積が約1,461haと前年度(約187ha)より大幅に増加した。 上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。(実績は9月公表予定) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は農業経営基盤強化促進法の改正法が施行される。これにより市町村は、2年以内に地域農業経営基盤強化促進計画(通称:地域計画)を策定させる必要がある。地域計画策定の有無は、将来の地域の農地利用や担い手の確保等のほか、補助事業の採択面でも影響を及ぼす。このため、県には、地域計画を策定する市町村に対し、情報提供や助言等の面において伴走支援が必要な状況にある。 農業経営基盤強化促進法等の関連法令の一部改正により、地域における協議の場の設置、将来の農地利用等について定めた地域計画(目標地図)の作成、農地の貸借が農地中間管理機構に集約されるなど制度が大幅に変わったため、猶予期間である令和7年4月までに新たな制度に対応する必要がある。 目標面積の達成するために、優良農地の保全を念頭に、開発等を目的とした農振除外の抑制を行う必要がある。 各年度の目標面積が達成できるよう関係者(市町村、土地改良区)と協力し、事業推進していく。
	R5 (3年目)		【成果】
	R6 (4年目)		【成果】
	R7 (最終年)		【成果】

目標指標①		地域計画又は実質化した人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	—	—	—	85	81				
計画	—	—	—	40	50					



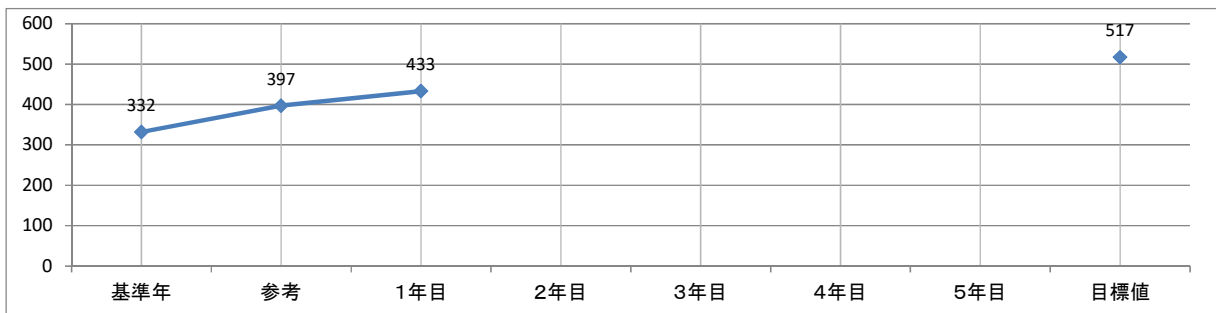
目標指標②		再生可能な遊休農地(1号)面積(荒廃農地調査は廃止、計画面積は変更なし)							指標の単位 ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	1,436	1,415	1,710	R5.11月頃公表				656	
計画		-	1,176	1,046						



目標指標③		農用地区域内の農地(耕地)面積							指標の単位 ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	59,255	58,861	58,697	R5.12月頃公表				58,000	
計画		-	58,837	58,628						



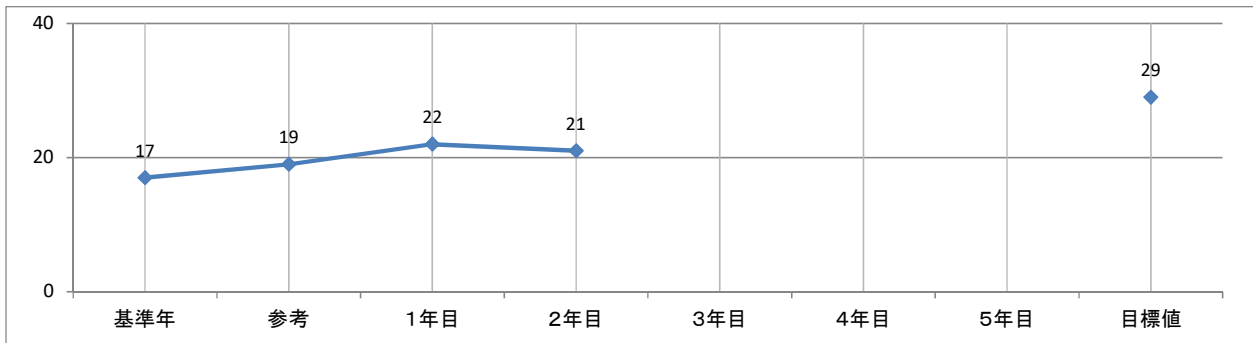
目標指標④		生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積							指標の単位 ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	332	397	433	R5.9月頃公表				517	
計画		-	395	448						



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	農地・農業水利施設の適切な保全管理の推進		
推進内容	①農業水利施設の保全による農業用水の安定供給 ②農地・農業用施設の保全		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか4地区において、水路、揚水機の更新(0.4km、2基)及び隧道の補修を実施し施設の長寿命化を図り、内3地区を完了させた。また、佐波新田用水第1、第2(伊勢崎市・太田市)及び藤川用水2期地区(邑楽町)の3地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか6地区において、水路(0.7km)及び附帯設備の更新・補修を実施し施設の長寿命化を図った。また、坂東大堰2期(前橋市ほか3市、1町)、美野原3期(中之条町)、追貝平1期地区(沼田市)及び利根加用水2期地区(千代田町、館林市)の4地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。 【課題】 ・対策工事は農閑期の限定された期間に行うため、施設を管理する土地改良区と調整し営農に支障が出ないよう工事を計画する必要がある。 ・活動組織の構成員の高齢化により、取組を断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減、土地改良区による事務支援などを推進する。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

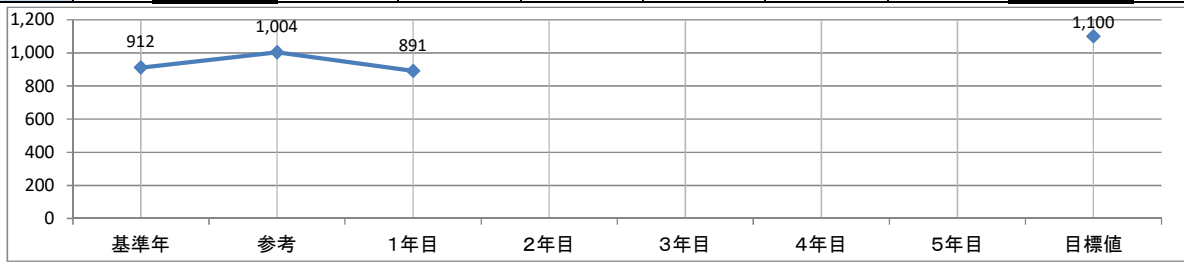
目標指標①		基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数							指標の単位	地区
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		17	19	22	21				29
計画			-	21	23					



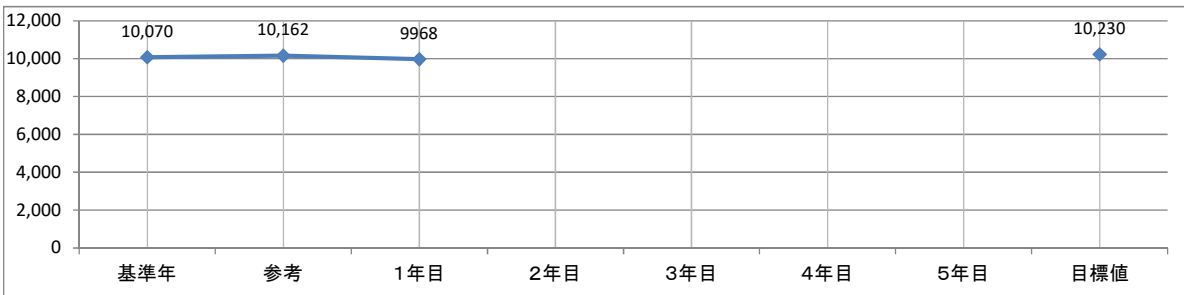
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱		次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】	
展開方向		ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化	
推進内容		①担い手が育つ「儲かる野菜経営と活気ある野菜産地」の実現 ②世界で戦えるこんにやく産地の育成 ③競争力ある産地の育成と生産基盤の強化(果樹、花き、菌床きのこ)	
担当課		蚕糸園芸課、林業振興課	
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った。 対象者:57者(施設整備16者 機械導入34者(両方導入2者) ソフト事業9件) 補助金額125,384千円(事業費511,139千円) ・財政事業が厳しい中、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 ・世界で戦えるこんにやく総合対策事業により、機械導入補助を実施し、こんにやく生産者の生産基盤強化を図った。 対象者9名(ブームスプレーヤ、生子植付機、拾い上げ機など)、補助金額6,064千円 ・観光果樹の振興に向けて、ウェブ版果樹園マップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」を開設し、消費者へのPRを図った。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のキャッチフレーズを募集、決定し、今後のPRに向けた体制を整えた。 ・花き生産の技術対策については、パラ環境制御技術活用事例集を作成し、技術のマニュアル化を図った。販売対策として、吾妻スプレーマム、六合の花、片品アジサイ、富岡ペゴニアの産地PR動画を制作した。消費拡大対策では、プライダル業界と連携した県産花き活用促進事業等を実施した。 ・菌床きのこの安定生産を図るため、オガ粉等の生産資材の確保を支援しました。また、きのこ生産の省力化、効率化を図るための施設整備の導入に支援しました。さらに、林業試験場と連携して新品目のきのこの育成技術の確立に取り組んだ。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った(対象者:35者(施設整備15者 機械導入15者(両方導入0者) ソフト事業5件)、補助金額133,330千円(事業費534,275千円))。また、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 ・「持続的なこんにやく生産を支える総合対策」により、機械導入を支援し、生産基盤の強化による産地育成を図った。(対象者:11名、補助金額:6,430千円) ・県育成りんご新品種「紅鶴」のプレデビューイベントを高崎駅で実施したほか、インスタグラムを開設して「ぐんまのりんご」をPRした。また、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植を支援し、収益力の向上を図った。(対象者:24名、面積:2.8ha<累計46.6ha>) ・コロナ禍により生じた花きの需要変化を探るため、民間シンクタンクに調査を委託したところ、今後の展望と改善方策が明らかになった。また、消費拡大を図るため、県産花きの展示会や高校生フラワーアレンジコンテストを実施した。 ・燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図り、省エネ資機材の導入経費を補助する事業を創設した(施設園芸セーフティネット構築事業 加入者536戸(加入率39%)、施設園芸省エネ転換緊急対策事業 事業実施主体数20団体(208戸)、補助金額116,556千円)。 ・菌床きのこの生産資材(オガ粉等)の調達経費について、きのこ生産に支援した。また、きのこ生産にあたり省力化・効率化を図るための施設整備に支援した。 ・林業試験場と連携して新品目のキノコ育成技術の確立に取り組んだ。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

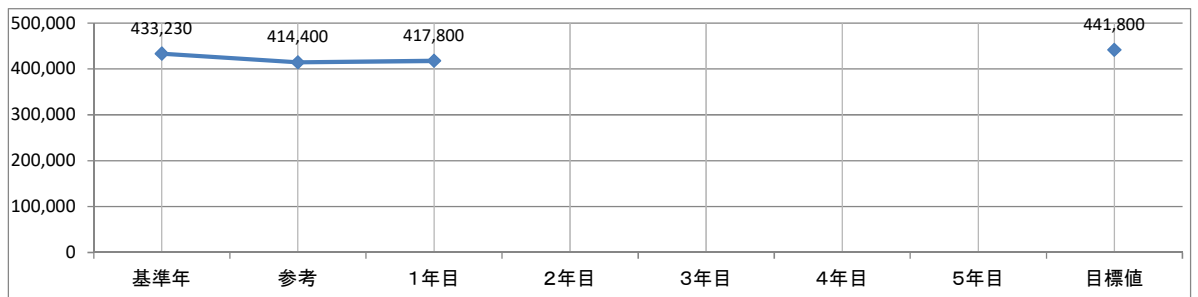
目標指標①		野菜産出額							指標の単位	億円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	912	1,004	891	R5.12月頃公表						1,100
計画		-	1,042	1,061							



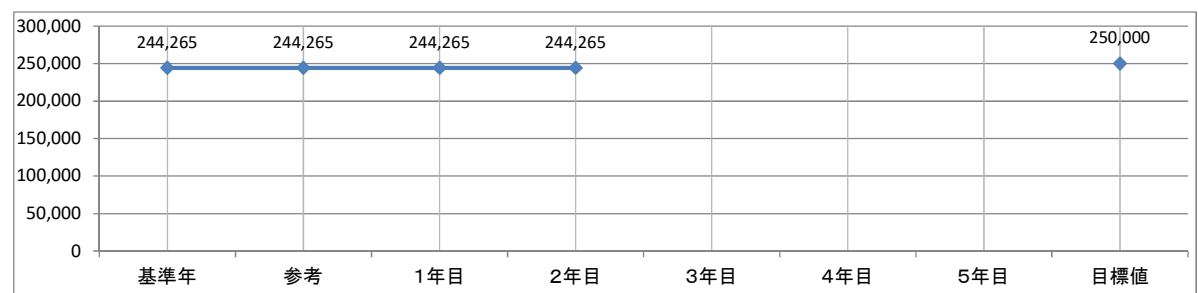
目標指標①		野菜重点8品目作付面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	10,070	10,162	9,968	R5.8月頃公表						10,230
計画		-	10,018	10,045							



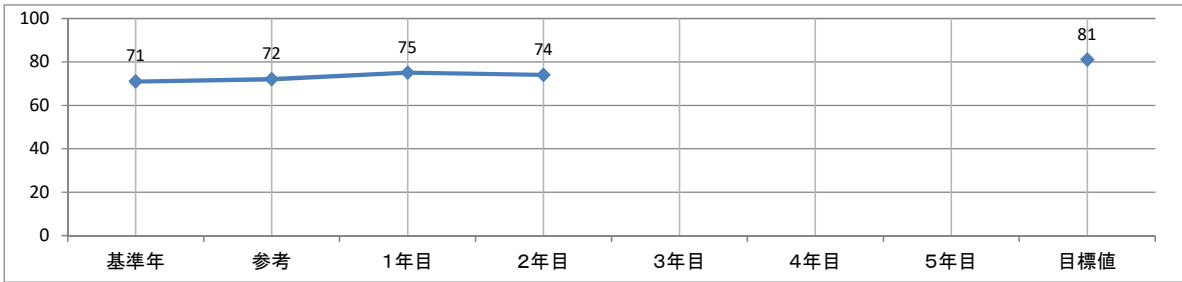
目標指標①		野菜重点8品目出荷量							指標の単位	トン	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	433,230	414,400	417,800	R5.8月頃公表						441,800
計画		-	429,830	432,020							



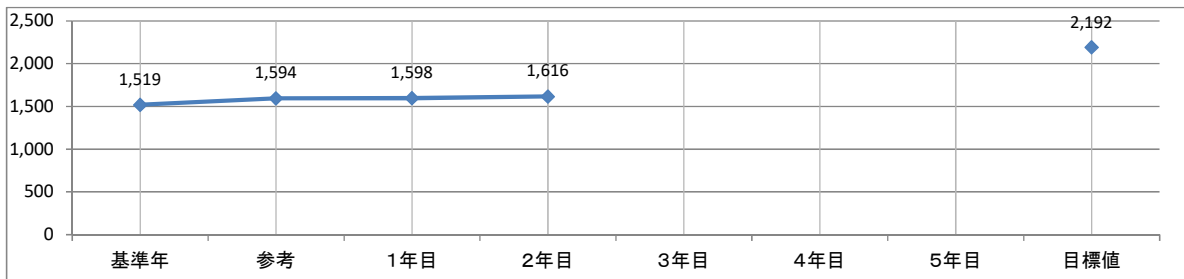
目標指標②		指定野菜価格安定制度交付予約数量							指標の単位	トン	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	244,265	244,265	244,265	244,265				250,000		0.0%
計画		-	245,800	247,900							



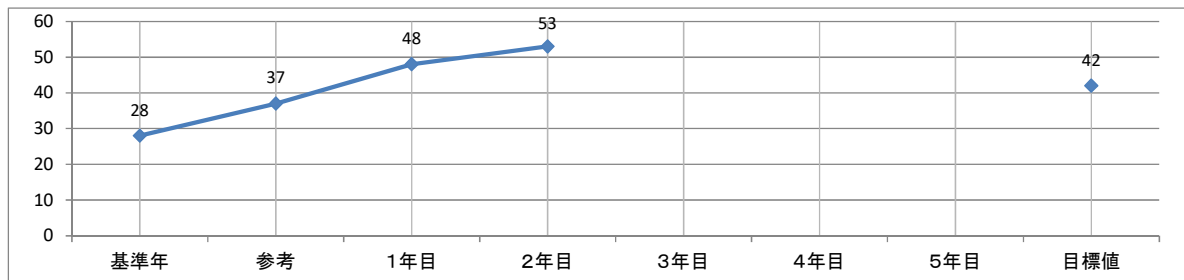
目標指標③		こんにゃく栽培面積10ha以上の農家数							指標の単位	戸	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	71	72	75	74					81	40.0%



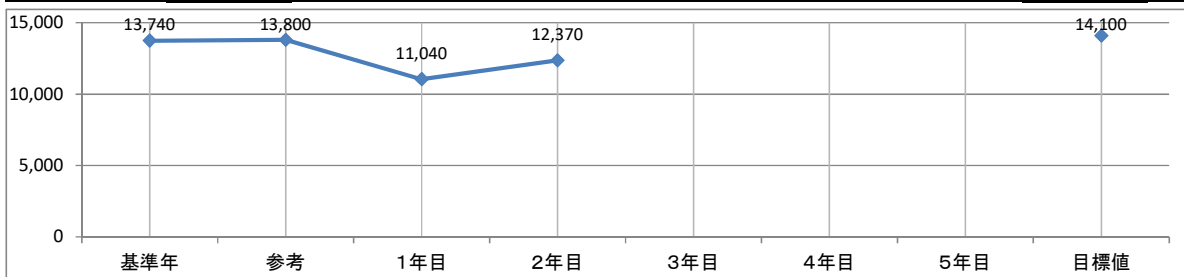
目標指標④		みやままさり栽培面積							指標の単位	ha	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	1,519	1,594	1,598	1,616					2,192	11.1%



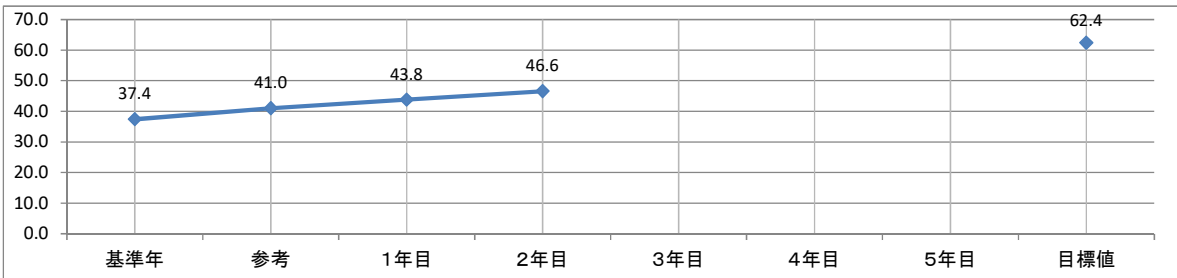
目標指標⑤		越冬栽培面積							指標の単位	ha	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	28	37	48	53					42	64.3%



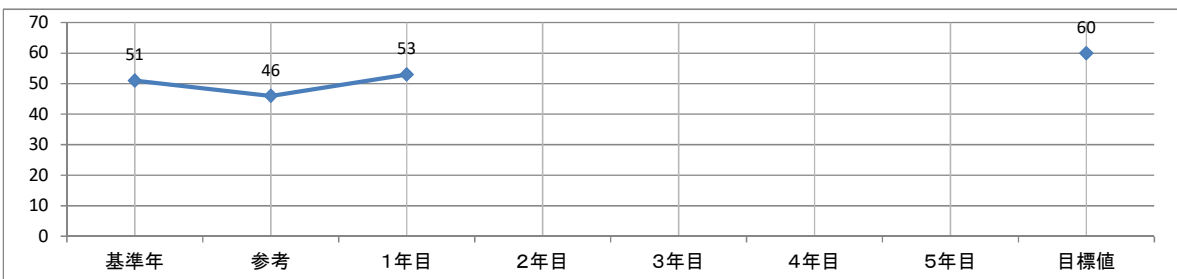
目標指標⑥		観光果樹品目収穫量(りんご、ぶどう、なし)							指標の単位	t	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	13,740	13,800	11,040	12,370					14,100	16.7%



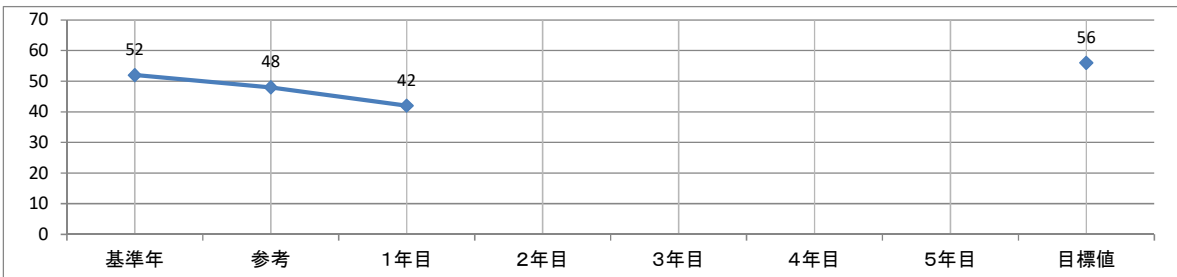
目標指標⑦		果樹改植面積(累計)							指標の単位	ha	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	37.4	41.0	43.8	46.6						62.4



目標指標⑧		花き産出額							指標の単位	億円	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	51	46	53	R6.3月頃公表						60



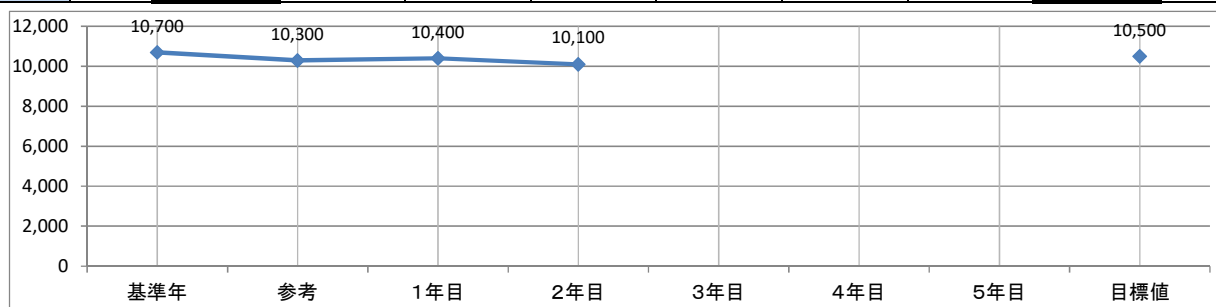
目標指標⑨		きのこ産出額							指標の単位	億円	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	52	48	42	R5.9月頃公表						56



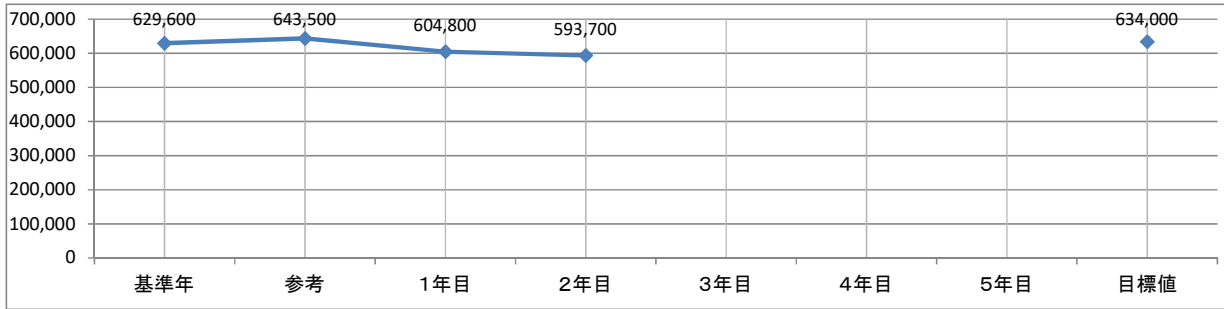
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	国際競争力に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立		
推進内容	①家畜の伝染性疾患の発生予防とまん延防止の徹底 ②生産基盤の強化と畜産物の安定供給（酪農、肉牛、養豚、養鶏、飼料作物、畜産経営） ③地域と調和した畜産経営の確立		
担当課	畜産課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・令和3年の県内の生乳生産量は208,496トンであり、1戸当たりの生乳生産量は506トンとなり、計画比の109%となった。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託し、後継牛確保の一翼を担った。 ・高糖分高消化性稲WCSについて、新たに耕種農家と畜産農家のマッチングが成立した。 ・子実とうもろこしの収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・第12回全国和牛能力共進会に本県代表牛が出品し、肉牛の部で全国5位獲得をはじめ、本県出品牛としては過去最高の成績を収めた。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託することができ、後継牛確保の一助となった。 ・耕種農家と畜産農家とのマッチング成果などにより、高糖分高消化性稲WCSの作付面積は増加した。また、子実とうもろこしの試験栽培に取り組む農家は、前年度1戸から3戸に増加した。さらに、収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。 【課題】 ・第13回全国和牛能力共進会において前回大会以上の成績を収めるためには、出品候補牛作出に向け、高能力牛の受精卵を確保する必要がある。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事スケジュールに沿った計画的な工事の進捗管理を行い、将来の増頭体制に向けた環境整備を図っていく。 ・高糖分高消化性稲の新品種の栽培特性を検証し、試験栽培から経営に組み入れた本格栽培への移行支援を行う必要がある。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

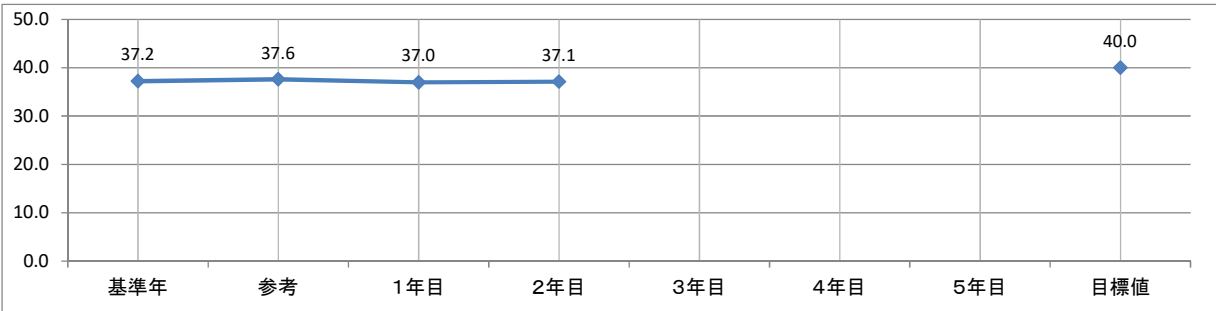
目標指標①		乳用未經産牛頭数							指標の単位	頭
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	10,700	10,300	10,400	10,100				10,500	
	計画		-	-	10,400					



目標指標②		豚飼養頭数							指標の単位	頭
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	629,600	643,500	604,800	593,700					
計画		-	631,100	631,800						



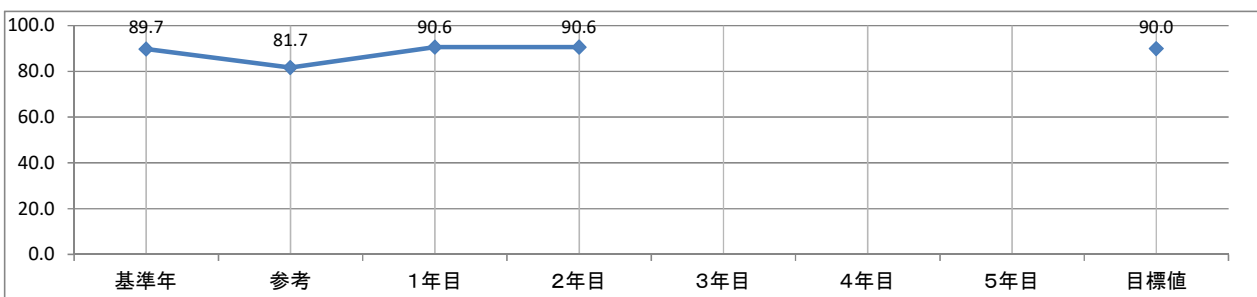
目標指標③		飼料自給率							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	37.2	37.6	37.0	37.1					
計画		-	38.1	38.6						



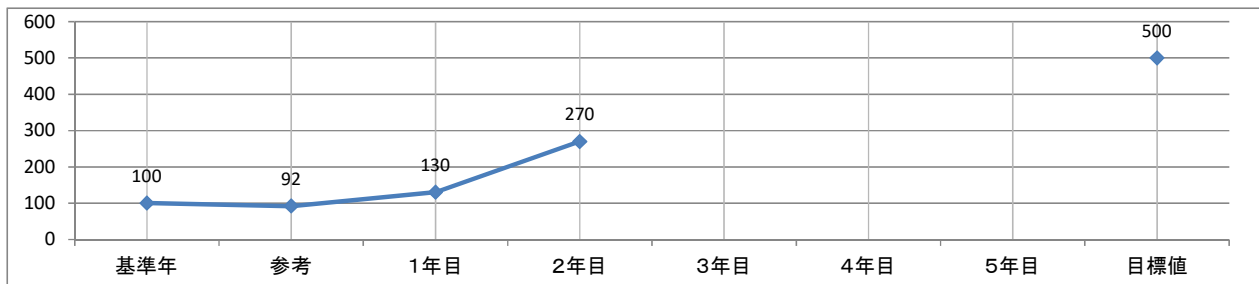
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開		
推進内容	①売れる米づくりの推進 ②水田における高収益作物等の作付拡大 ③ニーズに応じた高品質な麦生産		
担当課	蚕糸園芸課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により、安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は130haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は345haとなり、年々増加傾向である。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・水稲うるち玄米の1等比率は、概ね90%程度確保できている。 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は270haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は397haとなり、年々増加傾向である。 ・小麦「ゆめかおり」のタンパク質含量の目標値である13.0%は達成できていないが、基準値である11.5%以上はクリアできており、品質評価基準はAランクが確保できている。 【課題】 ・水稲品種「にじのきらめき」は、今後も増加する見込みであり、県内採種ほ場での優良種子確保が必要である。 ・地域ブランド米の作付面積は増加傾向であるものの、やや頭打ちとなってきた。担い手の高齢化や販路確保が課題となっている。 ・小麦「ゆめかおり」は、製パンに適した高タンパク質含量を確保しやすい畑での作付けを原則としてきたが、連作障害の発生により、生産が不安定になりやすいという課題がある。作付拡大のためには、水田での作付けを進める必要があるが、高タンパク質含量を確保するための栽培技術の徹底が必要となる。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

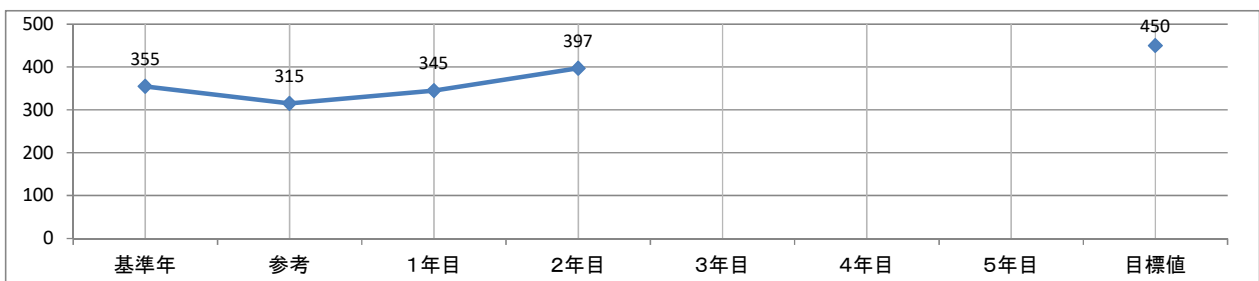
目標指標①		うるち玄米一等比率							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	89.7	81.7	90.6	90.6					
計画			90.0	90.0						



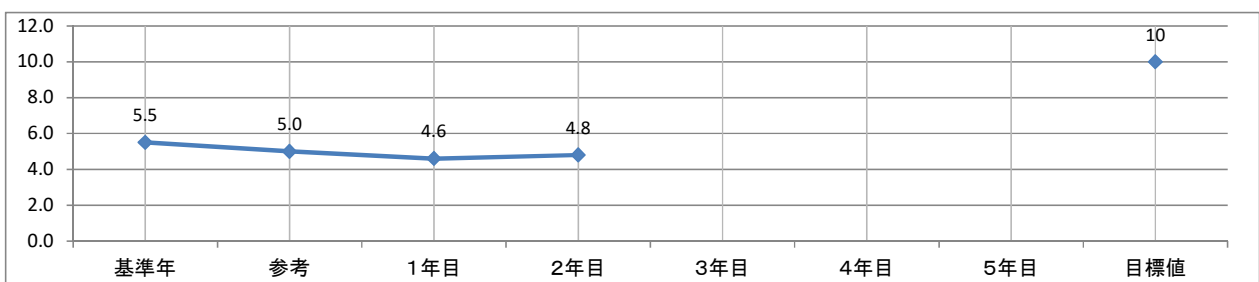
目標指標②		「いなほっこり」等作付面積							指標の単位	ha	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	100	92	130	270						500



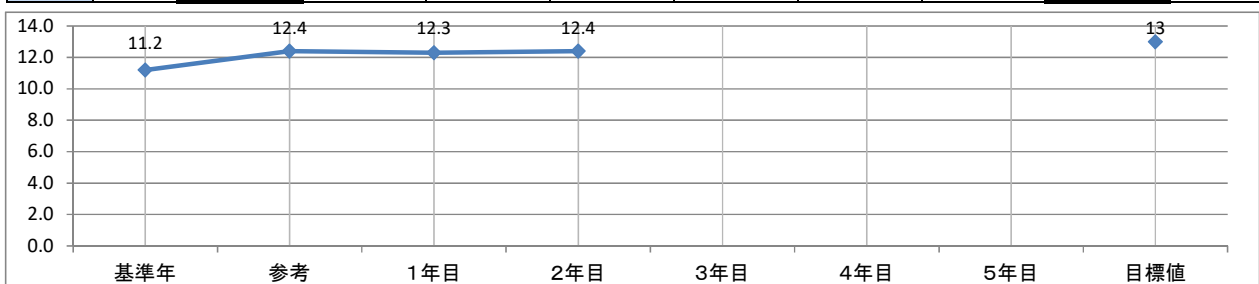
目標指標③		ブランド米作付面積							指標の単位	ha	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	355	315	345	397						450



目標指標③		「さとのそら」の農産物検査数量割合							指標の単位	%	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	5.5	5.0	4.6	4.8						10



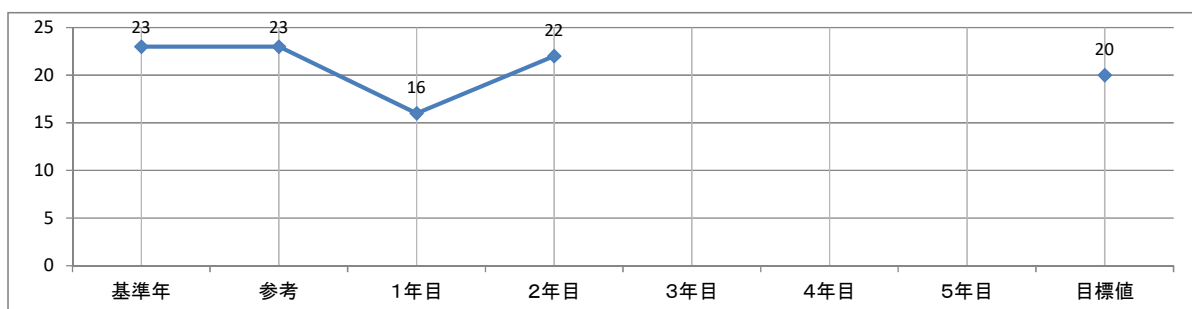
目標指標③		「ゆめかおり」のタンパク質含有率							指標の単位	%	
実績	実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	計画	11.2	12.4	12.3	12.4						13



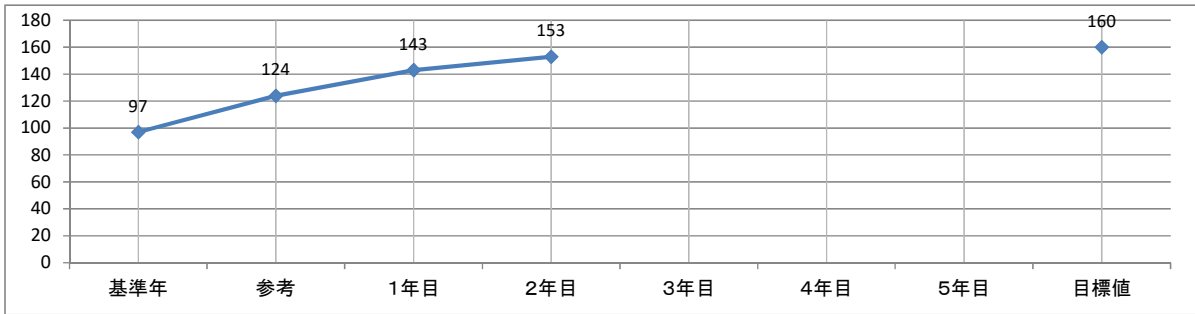
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につながる収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進		
推進内容	①地域に根ざした技術開発の推進 ②産地の将来を見据えたスマート農業技術の普及促進		
担当課	農政課、技術支援課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和3年度はぐんま農業新技術として5件、普及員指導資料として11件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ ・ 嬭恋村のキャベツ栽培における適正なリン酸施肥量の解明 ・ 軽量化した回転蒔と尿受器の製作 ・ ドローンを利用したコクチバス産卵床の探索 ・ ネット式脱臭装置による臭気対策技術 ・ イチゴ、バラで環境制御技術の普及実証ほを設置し、得られた環境測定データから、生育や収量への影響を解析することができた。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は71戸の経営体で導入され、目標値を達成した。
	R4 (2年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和4年度はぐんま農業新技術として10件、普及員指導資料として12件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ ・ 低コスト・省力化が可能なブドウY字樹形の開発 ・ 電動剪定ばさみの活用による桑収穫作業の省力化と疲労軽減 ・ 禁漁区の設定による溪流魚の増殖 ・ ゲノミック評価を活用した黒毛和種の24ヵ月齢出荷技術 ・ イチゴ、バラにおいて環境制御技術、ICT活用の普及実証ほを設置し、環境測定データや生育データの見える化を進めるとともにクラウドを利用した農家との情報共有を行った。また、得られたデータをもとに、農家との実績検討会、勉強会を開催した。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は79戸の経営体で導入された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラウドを利用した農家との情報共有では、ポイントを絞って効果的にBIツールを活用していく必要がある。 ・ また、環境制御を行う農家の技術が向上する中で、普及指導員も複数の環境要素を統合して管理する「統合環境制御」に関する理解を深めていく必要がある。
	R5 (3年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

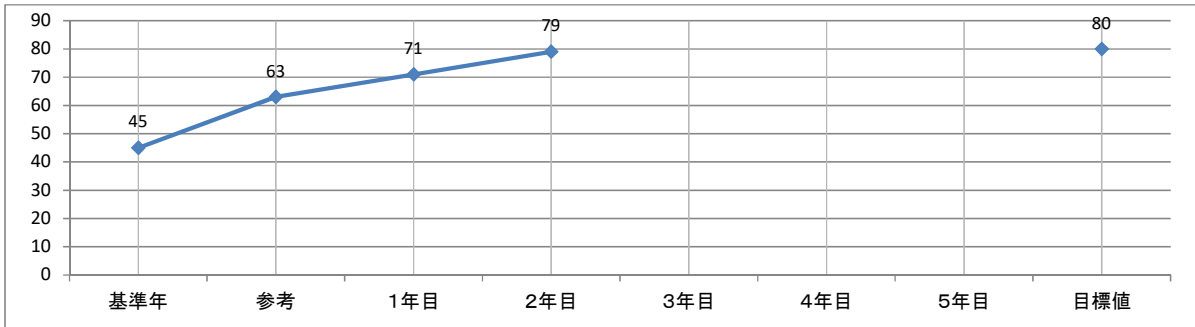
目標指標①		ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数							指標の単位 件	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	23	23	16	22					20
計画		-	20	20						



目標指標②		施設園芸における環境制御技術導入農家数							指標の単位 戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	97	124	143	153					
計画		-	130	148						



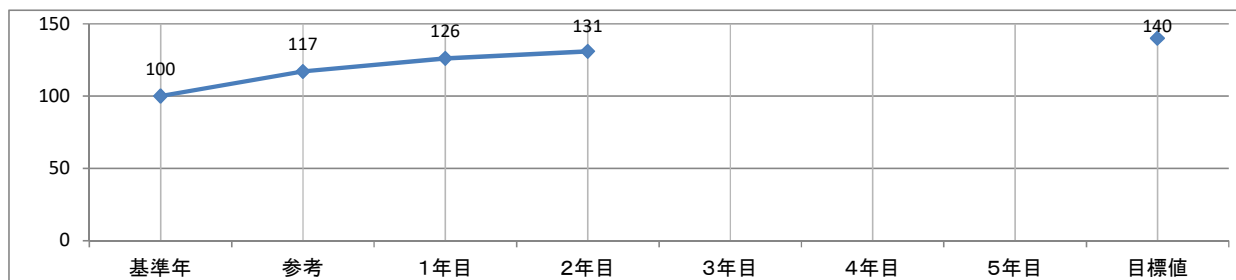
目標指標③		水田作におけるスマート農業機械導入農家数							指標の単位 戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	45	63	71	79					
計画		-	65	75						



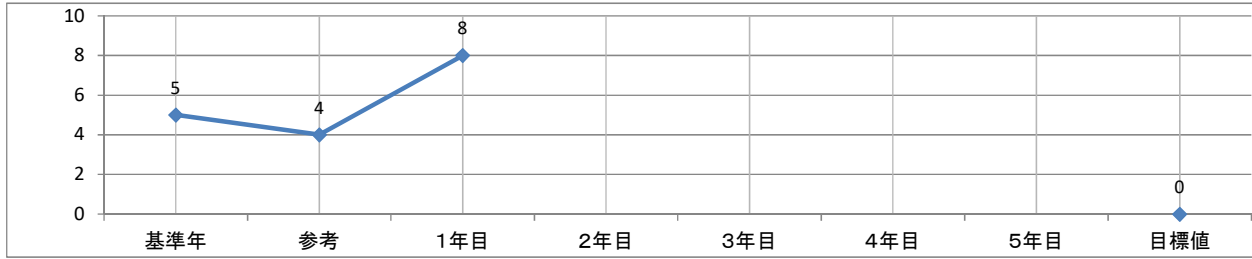
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化		
推進内容	①農業生産工程管理(GAP)の導入推進 ②農作業安全対策の推進 ③セーフティネットの強化による農業経営の安定 ④家畜の伝染性疾病の発生予防とまん延防止対策の徹底(再掲)		
担当課	技術支援課、畜産課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・県内農業者に対するGAP手法の理解や取組を広めるため、GAP導入講演会を開催するとともに、第三者認証取得を目指す生産組織等に対し支援を行った。また、普及指導員を対象に、指導者養成研修を開催し、GAP導入を支援する指導者の育成を図った。 ・県警、JA中央会、JA全農ぐんま、農業機械商組合、市町村会、県関係機関を構成員とした「群馬県農作業事故防止・農業機械化推進会議」を令和3年7月に立ち上げた。これにより関係機関との情報共有・連携が強化された。 ・令和4年1～3月に日本農業機械化協会の協力により「農作業安全に関する指導者向け研修会」を開催し、農作業安全指導員90名を育成した。 ・園芸施設共済の加入推進を図った。また、農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,437経営体が加入した。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・県内農業者に対するGAP導入講演会を開催するとともに、GAPに取り組む生産組織等を支援した。また、普及指導員を対象に指導者養成研修を開催し、指導者の育成を図った。 ・本県のGAPを国際水準GAPの取組へと引き上げを図るため、国際水準GAPガイドラインに対応したチェックシートを作成した。 ・関係機関と連携し、春と秋の農繁期に農作業安全確認運動を展開し、農作業安全に関する啓発活動(講習会のべ329回、参加者のべ6,175人)を行った。また、令和4年12月～令和5年3月に「農作業安全指導者向け研修」を開催し、農作業安全指導員75名を育成した。 ・農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,609経営体(R5.1月時点)が加入した。また、園芸施設共済の加入推進を図った。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標	GAPの取組組織数							指標の単位	組織	
	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	100	117	126	131				140	65.0%
計画		-	108	116						



目標指標②		農作業死亡事故件数							指標の単位	人
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	5	4	8	R6.3月頃公表					
計画		-	0	0						

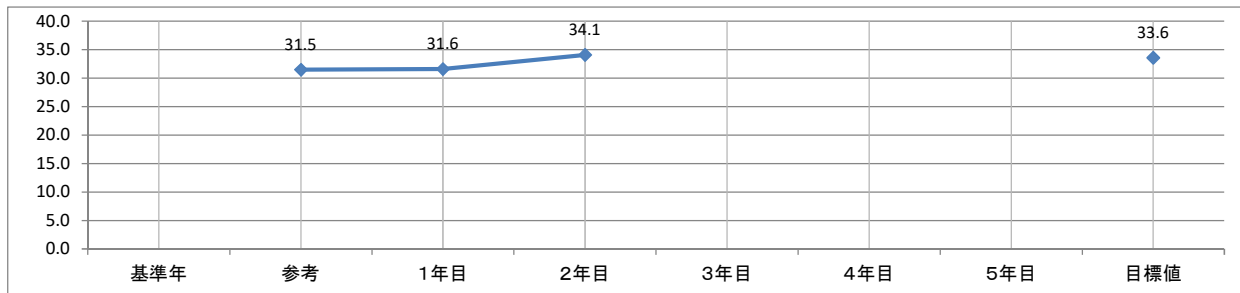


群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

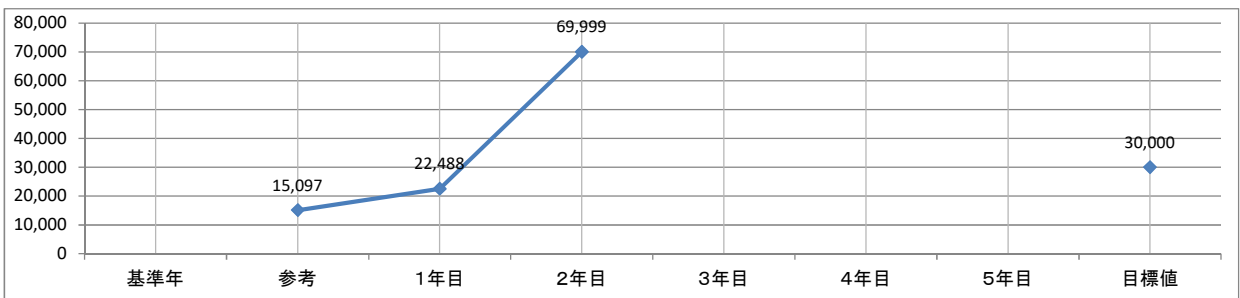
施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大		
推進内容	①新たな品種・品目のブランド化に向けた取組 ②産地としての群馬県のイメージ向上 ③6次産業化活動の支援		
担当課	ぐんまブランド推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のりんご4品種について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見いだし、結果をレポートに取りまとめ、首都圏で開催した県産りんごを活用した料理教室等で配布し、理解促進を図った。また、分析結果を抜粋したポスターを作成して全りんご農家に配布することで、生産現場へのフィードバックを図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を117回(1,628人)開催しました。料理という体験を通して、さらには教室を生産者とりもてつなぐなどの工夫により県産食材の理解促進と認知向上を図った。 ・上州地鶏については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品の届出を目指すことを決定し、品質安定化に向けた取組とデータ構築に着手した。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを3回実施(延べ503店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行った。 ・県庁動画スタジオtsulunosを活用した動画配信や、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(7件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・6次産業化サポートセンターを設置し、6次産業化に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ229件、プランナー派遣回数:のべ33件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化チャレンジ塾」を開催し、6次産業化を成功させるDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等のデジタル技術を活用した販路開拓に必要な知識等、ニューノーマルに対応した6次産業化に取り組む人材の育成に取り組んだ。(講義10回・参加者数のべ274名、インターンシップ2回・参加者数のべ41名) ・6次産業化チャレンジ支援事業として、6次産業化に意欲のある県内農業者を対象に事業提案を公募し、審査会で選考した優秀事業プランに対し、補助金による支援を行った。(応募件数:5件、補助金交付件数:2件)
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のウメ(白加賀)及びニジマス(ギンヒカリ)について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見いだし、結果をレポートに取りまとめた。ウメについては、首都圏で開催した料理教室で食材として使用し、理解促進を図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を84回(1,029人)開催し、県産食材の理解促進と認知度向上を図った。 ・上州地鶏(ムネ肉)については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品としての届出が消費者庁に受理された。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを実施(229店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行い、本県登録生産者数は、29名増加し、128名となった。 ・インスタグラムやフェイスブック等のSNSや動画配信、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(6件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・農山漁村発イノベーションサポートセンターを設置し、6次産業化や農山漁村発イノベーション(農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することにより、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る)に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ193件、プランナー派遣回数:のべ38件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化等イノベーションチャレンジ塾2022」を開催し、6次産業化や農山漁村発イノベーションを成功させるためにDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等を活用した販路開拓に必要な知識等、6次産業化や農山漁村発イノベーションに取り組む人材の育成を行った。(講義8回・参加者数のべ405名、インターンシップ3回・参加者数のべ76名) ・農山漁村発イノベーション広域サポート事業を実施し、農山漁村発イノベーションサポートセンターでは支援出来ない者(※)を対象とした相談対応を行った。 ※サポートセンターの支援対象者となるためには、今後5年間で経営全体の付加価値額を増加させる計画を立てる必要があるため、当該計画を立てることが困難な事業者に対しては、広域サポート事業により相談対応を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G-アナライズ&PRチームにおける取組では、需要に見合った生産体制の構築、おいしさや健康に関与する成分の含有量と栽培条件の関係性を検証する必要がある。 ・首都圏における料理教室では、定員充足に向けた魅力的な品目・料理による事前PR、参加者のSNS等による情報拡散が必要である。 ・産直ECサイトを活用した生産者の販路開拓では、ECサイト活用メリットの周知や販売力向上のためのスキルアップ支援が必要である。 ・県内の6次産業化関連の年間販売額は年度別計画額を達成出来ない状況であるため、目標額達成のためには商品開発力の向上や販路の開拓等きめ細かな事業者支援に引き続き取り組む必要がある。 ・令和4年度以降のサポートセンターは、6次産業化以外の当該が所管していない取組(農泊支援、木工品等農産物以外の特産品の振興など)に係る相談対応等の支援も行うことから、部内・庁内の関係所属と調整を図りながら運営する必要がある。

	R5 (3年目)	【成果】 【課題】
	R6 (4年目)	【成果】 【課題】
	R7 (最終年)	【成果】 【課題】

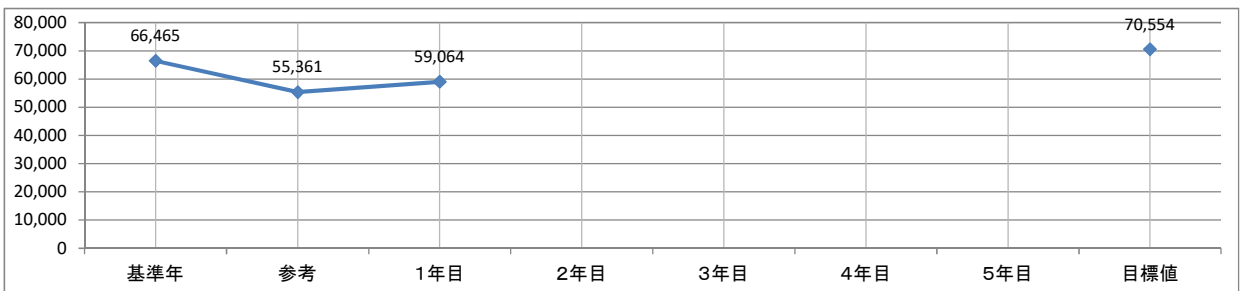
目標指標①		群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	-	31.5	31.6	34.1				33.6	
	計画	-	-	31.9	31.9					



目標指標①		PR動画の年間総視聴回数							指標の単位	回
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	-	15,097	22,488	69,999				30,000	
	計画	-	-	18,000	18,000					



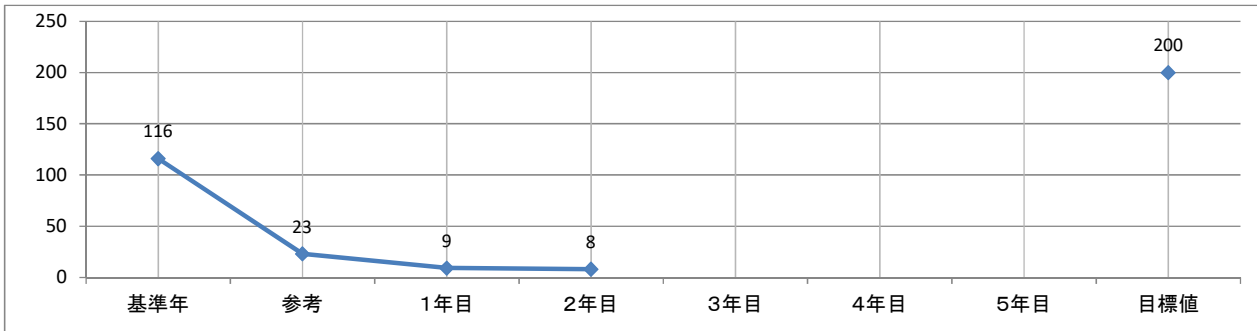
目標指標①		農業生産関連事業 年間総販売金額(6次産業化総合調査)							指標の単位	百万円
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	66,465	55,361	59,064	R6.6月頃公表				70,554	
	計画	-	-	67,801	68,479					



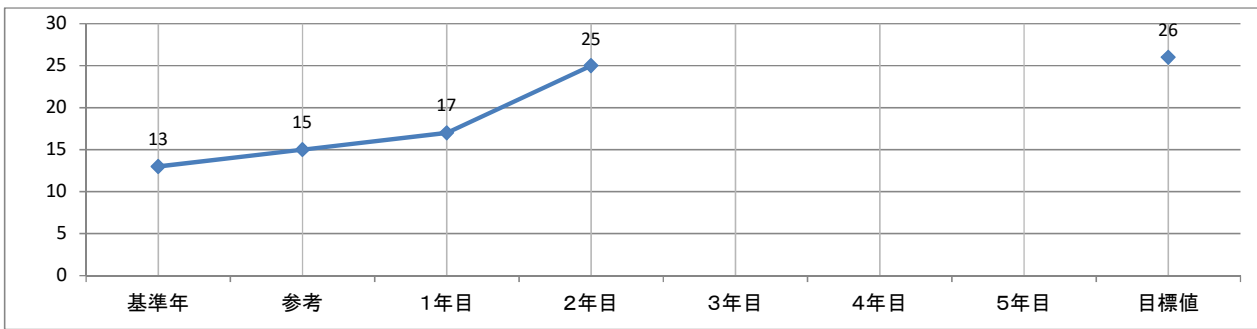
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	農畜産物等の輸出による販路拡大		
推進内容	①農畜産物等の輸出による販路拡大 ③海外需要に応じた生産・環境の整備		
担当課	ぐんまブランド推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	C	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港においてバイヤー招へい商談会を2回開催し、現地PR販売を通じて評価の高かった「いちご」、「やまといも」については、本輸出に繋がる結果となった。 ・欧州(フランス・パリ)において上州和牛の認知度向上や需要回復を目的に、SNSを活用したPR販売等を実施した結果、取扱飲食店が9店舗から35店舗に増加した。 ・北関東三県連携を活用したUAEにおける県産農畜産物等プロモーションにより、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ評価が高く、現地での健康志向層への需要も期待される結果となった。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <p>(香港・台湾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤー招へい商談会、現地フェア、Web商談会など開催した結果、香港でのヤマトイモ、イチゴ、サツマイモ、コンニャク加工品の輸出実績につながった。また、令和4年2月に輸入規制が緩和された台湾においては、ヤマトイモ、キャベツ、コンニャク加工品等の輸出に道筋をつけることができた。 (フランス・パリ) ・ミュッシュラン星付きレストランにおいて、上州和牛を供する期間限定のプロモーションを実施したところ、レストラン関係者など実需者から一定の評価を得ることができ、上州和牛の認知度向上につながった。 (UAE・ドバイ) ・現地レストランにて、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ、高評価が得られ、現地での健康志向層への需要の可能性を確認することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出国が求める検疫規制に応じた生産者・産地を育成し、輸出農畜産物等の安定的な供給体制を構築する必要がある。
	R5 (3年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		青果物輸出金額							指標の単位	百万円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	116	23	9	8						200
計画		-	40	40							



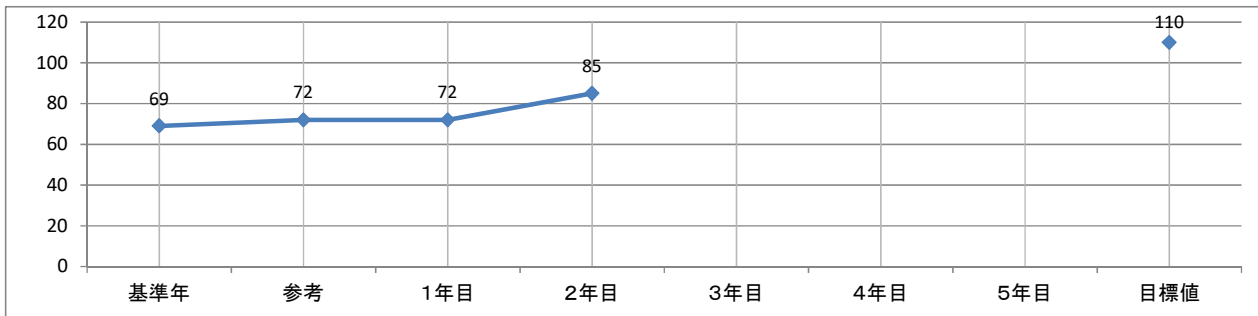
目標指標①		輸出に取り組む産地・事業社数							指標の単位	産地・者	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	13	15	17	25						26
計画		-	20	22							



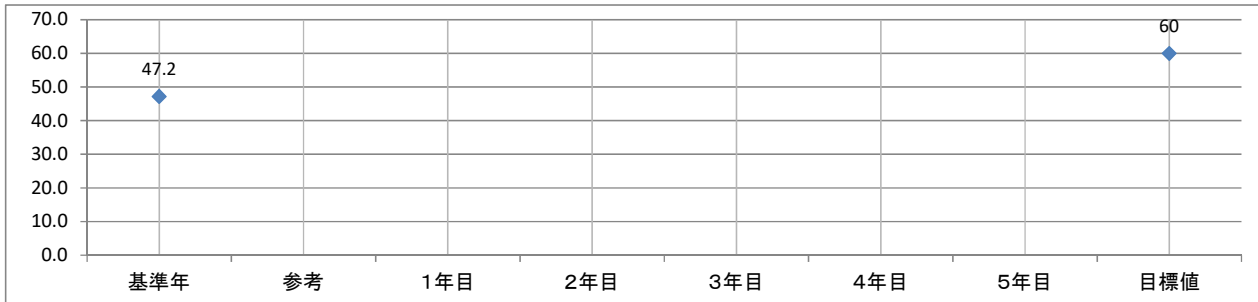
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上		
推進内容	①地産地消の推進による県民の県産農畜産物への愛着醸成 ②地域の郷土料理等の食文化への理解促進		
担当課	ぐんまブランド推進課、健康長寿社会づくり推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに8店舗を認定するとともに、更新時に3店舗が優良店へ昇格した。また、「地産地消推進店&直売所ガイドブック」を約30,000部作成し、観光関連施設、道の駅、健康情報ステーション及び市町村等へ配布して店舗のPRを行った。 ・県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、GUNMA QUALITY(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 ・学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。昨年に引き続き、教育委員会と連携し、県内全公立小中学校でのすき焼き給食を実施した。 ・「和食文化絵手紙コンテスト」を開催し、5歳から91歳まで、県内各地から603点の応募があった。作品の創作過程を通じて、地域の郷土料理等の食文化への関心を高めるとともに、新聞、ラジオ等の各種媒体を活用した事業広報により、県民の食文化に関する理解の促進が図られた。 ・若い世代食育推進協議会において、大学生等による和食文化のPR動画作成等の実践活動を通し、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 ・和食と地域食文化の保護継承のため、農林水産省と連携し、郷土料理データベース「うちの郷土料理」に群馬県の郷土料理27品目を掲載した。地域や家庭で受け継がれてきた料理への接点の拡大が図られた。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに17店舗を認定するとともに、更新時の昇格を含め新たに14店舗を優良店へ認定した。また、県産農畜産物の魅力を実感する機会を増やすため、「ぐんま地産地消推進店」を巡るスタンプラリーを実施し、延べ約500人の参加があった。 ・県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 ・学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。また、「学校給食ぐんまの日」に、畑と近隣の小学校4校の教室をリモートで結び、生産者と児童約600人が交流を図る食農教育を行った。 ・令和3年度に実施した「和食文化絵手紙コンテスト」の作品の展示を、イオンモール高崎(8月4日)、イオンモール太田でのぐんまフェア(10月26日から30日)、県民センター(11月15日から12月15日)で実施し、来場者の地域の食文化への理解を深める機会となった。 ・県内大学生等により郷土料理動画作成などの食育実践事業を実施した結果、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内における地産地消運動を効果的に展開するためには、関係機関・団体の気運醸成に努める取組が必要である。 ・本県の伝統的な食文化を次世代へ継承するため、継続して、和食やぐんまの伝統的な食文化に関する展示や広報の実施や、若い世代による実践活動等を通じて、食文化への理解促進を図る必要がある。
	R5 (3年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		ぐんま地産地消優良店認定店舗数							指標の単位	店舗	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	69	72	72	85						110
計画		-	75	75							



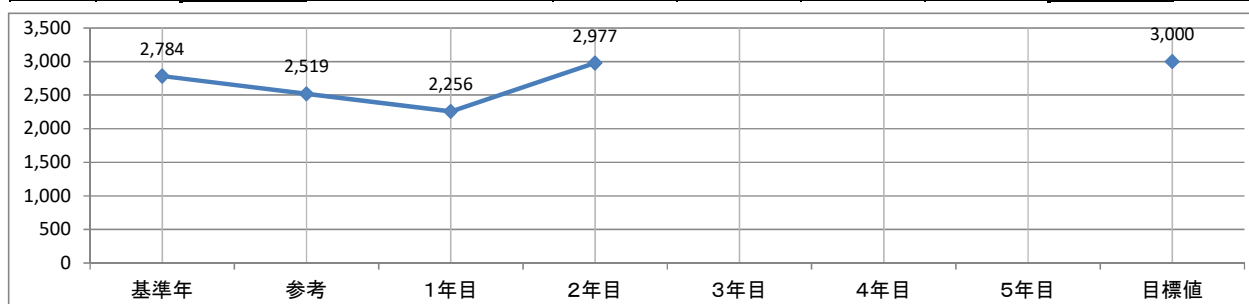
目標指標②		郷土料理や伝統料理等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	47.2	-	R6年度公表	R6年度公表						60
計画		-	52	53.7							



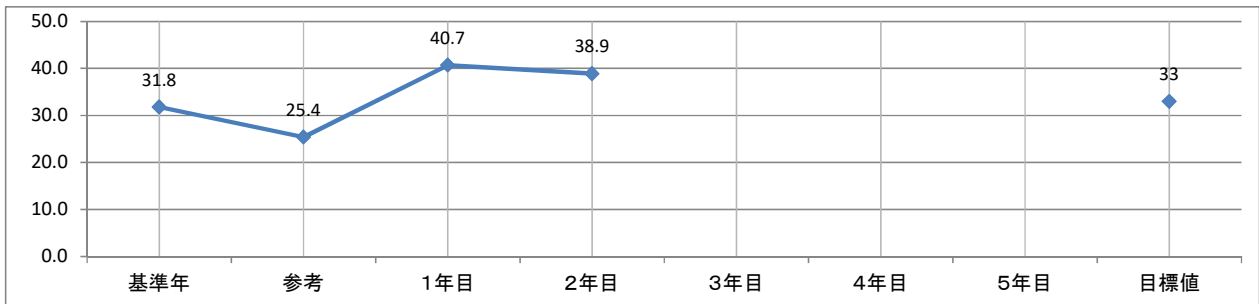
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供		
推進内容	①食と農に対する県民の理解促進と安心の提供 ②農薬の適正使用と危害防止対策の推進 ③生産農場段階における畜産物の安全性の確保 ④検査・確認体制の充実		
担当課	技術支援課、畜産課、食品・生活衛生課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの講演会や講座が中止となったため、令和3年度実績が基準年の実績値以下となってしまったものの、新しい生活様式のもと、オンラインセミナー等新たな手法を取り入れて実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を67件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・新型コロナウイルスの感染症予防の観点から、引き続き、オンラインセミナーによるリスクコミュニケーション事業を実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を37件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。 【課題】 ・消費者への理解促進を図るため、引き続き、様々な方法によりリスクコミュニケーション事業を実施する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」へ移行された後における農業管理指導士向け研修会等の実施方法について検討する必要がある。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

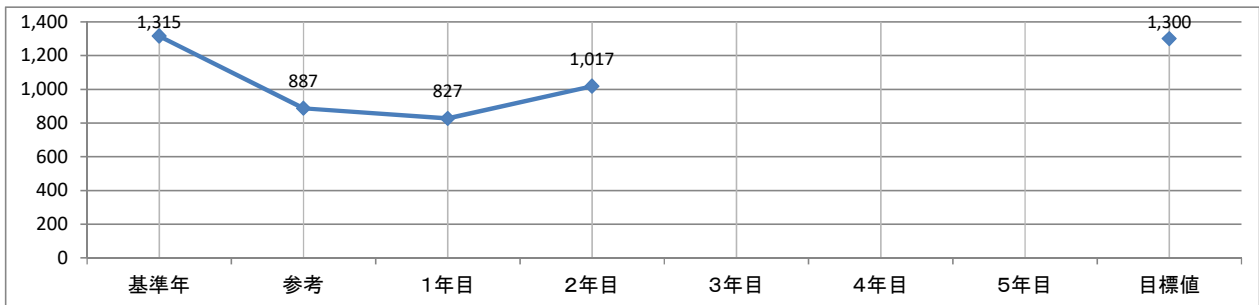
目標指標④	リスクコミュニケーション事業年間参加人数							指標の単位	人	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	2,784	2,519	2,256	2,977				3,000	75.2%
計画		-	3,000	3,000						



目標指標④		動物用医薬品販売業者への立入検査割合							指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	31.8	25.4	40.7	38.9						33
計画		-	33.3	33.3							



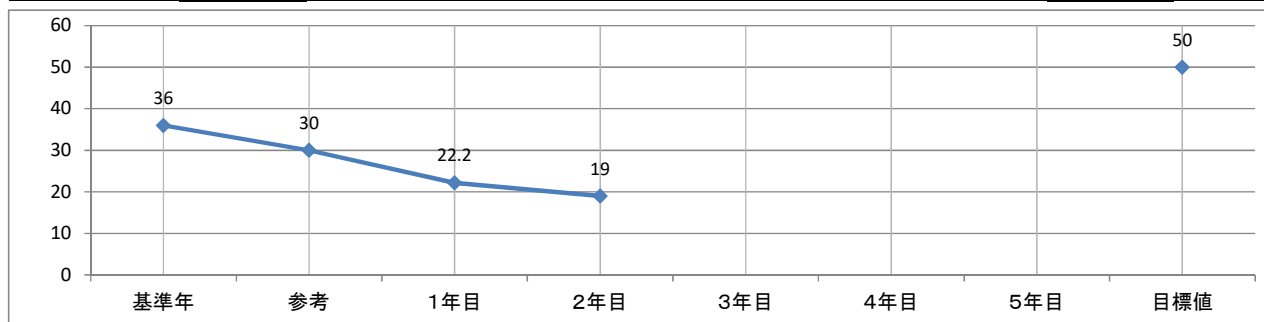
目標指標④		講習会等での農薬適正使用指導回数							指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	1,315	887	827	1,017						1,300
計画		-	1,300	1,300							



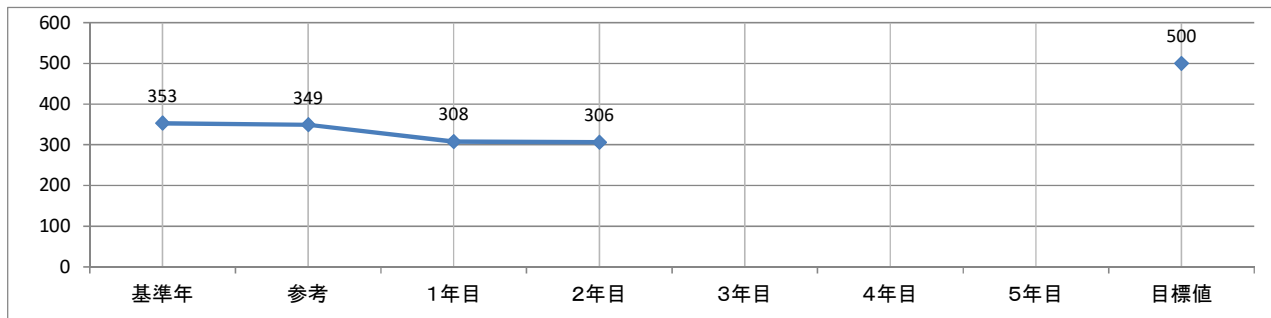
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興		
推進内容	多彩な特産物の生産による活力と魅力ある地域づくり ①蚕糸、②水産、③きのこ		
担当課	蚕糸園芸課、林業振興課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	C	【成果】 ・桑の凍霜害等により繭生産量は大幅に減少したものの、「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに2経営体が養蚕を開始した。 ・県内17漁協中6漁協(うちR3新規は5漁協)がオンライン遊漁券を導入した。ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこを学校給食へ提供し、きのこの需要拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用してきのこの消費拡大に取り組んだ。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに3経営体が養蚕を開始した。また、中古養蚕機材をリサイクルし、新規参入者等へ供給する体制を整えた。 ・県内17漁協中9漁協(うちR4新規は3漁協)がオンライン遊漁券を導入し、利便性が向上した。また、ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこの学校給食への提供と食育の実施、きのこ品評会、きのこ料理コンクールの開催により消費拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用して、きのこの消費拡大に取り組みました。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

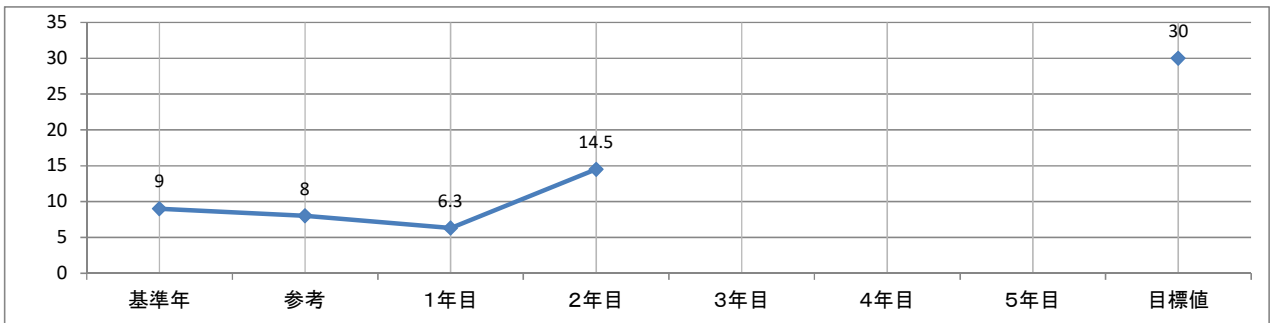
目標指標①		繭生産量						指標の単位	t	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		36	30	22.2	19				50
計画		36	-	39	42				50	-98.6%



目標指標①		養蚕経営体一戸当たり繭生産量							指標の単位	kg
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	353	349	308	306					
計画		-	395	420						



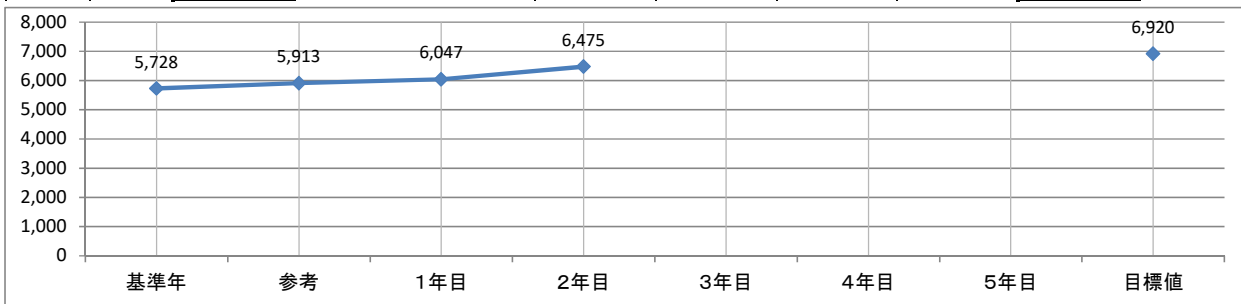
目標指標①		ハコステ生産量							指標の単位	トン
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	9	8	6.3	14.5					
計画		-	24	24						



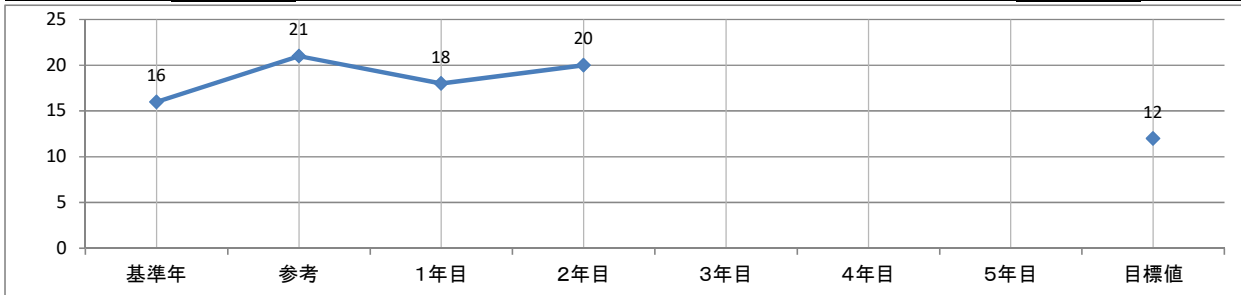
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	資源循環を目指した環境保全型農業の推進		
推進内容	①環境保全型農業の推進 ②病害虫の発生状況を考慮した効果的な防除の推進 ③食品ロス「ゼロ」の推進		
担当課	技術支援課、ぐんまブランド推進課		
各年度の 実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコファーマー認定者数について、普及指導現場との連携した取組により概ね計画を達成できた。また、生分解性マルチの活用農業者へのヒアリングや販売業者との情報交換を行い、普及・啓発した。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料として、「病害虫発生予報」を毎月(12回)、新たな病害虫の発生が確認された場合に「特殊報」を2回、その他必要に応じて「病害虫情報」を4回、計18回提供した。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地の果樹園における防除の取組を支援した。 ・農業者や農業団体、食品関連事業者向けに食品ロス削減に係る情報提供などの普及啓発に取り組みました。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及指導現場との連携した取組により、累計エコファーマー認定者数は6,475人と目標値を達成できた。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料である「病害虫発生予報」を毎月(計12回)、新たな病害虫の発生が確認された際に情報提供する「特殊報」を1回、病害虫の多発が予想される際に情報提供する「注意報」を1回、その他必要に応じて情報提供する「病害虫情報」を3回行った。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地の果樹園における防除の取組を支援した。 ・直売所等で生鮮食品ロスが発生した場合に、それを廃棄することなく、子ども食堂等へ寄付できる体制づくりを各地域で促進していくことを目的として、JA直売所、子ども食堂関係者、県普及指導員、市町村職員等を対象に「農業生産分野における食品ロス削減推進セミナー」を開催し、食品ロス削減に関する普及啓発に取り組んだ。(参加者数30名) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みどりの食料システム法」に基づく新たな認定制度が令和5年度から開始予定であるが、対象範囲の拡大や認定要件も変更となるため、制度周知を図り、さらなる認定者増加に向けた普及啓発を行う必要がある。 ・適期・的確な防除が実施できるよう、予察調査の効率化と予報精度のさらなる向上を図る必要がある。 ・クビアカツヤカミキリについては、引き続き、交付金活用等による防除対策の徹底を図る必要がある。 ・規格外品や直売所等で発生した農産物の売れ残りの多くが廃棄されていると思われることから、これらの活用に向けて支援を行う必要がある。一部の直売所や生産者団体及び生産者個人が、地域のフードバンク等にそれらを無償提供している事例はあるが、組織的な取組は少なく、SDGs達成の観点からも積極的な啓発及び支援が必要である。
	R5 (3年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		エコファーマー認定者数(累計)							指標の単位	人	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	5,728	5,913	6,047	6,475						6,920
計画		-	6,120	6,320							



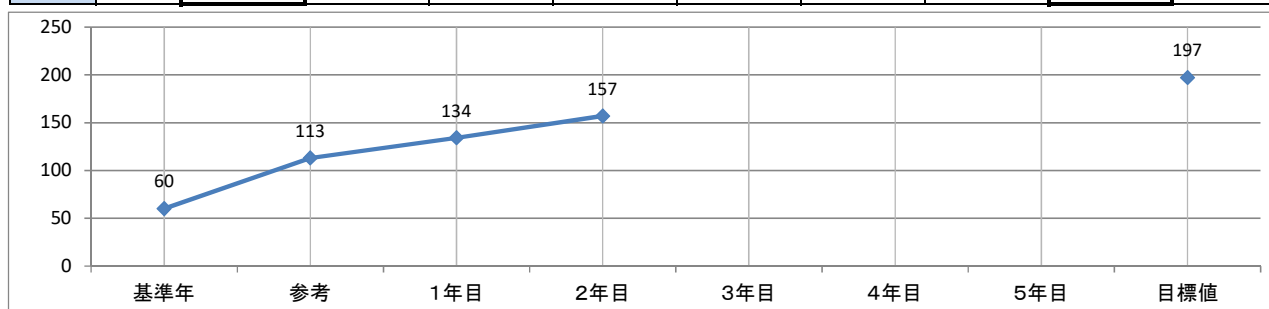
目標指標①		病害虫発生予察情報の提供回数(年間)							指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	16	21	18	20						12
計画		-	12	12							



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化		
推進内容	①防災重点ため池の豪雨・地震対策 ②農村の防災・減災の推進		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池5か所のハザードマップを作成した。(175箇所/197箇所作成済み) ・防災重点ため池32か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した。 (豪雨:154/197箇所調査済み、地震:175/197箇所調査済み) ・県、市町村、防災重点ため池を管理する土地改良区及び群馬県土地改良事業団体連合会で構成する「群馬県ため池保全整備連絡会」を設置し、ため池の適正な管理手法等について検討した。(2回開催)
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池16か所のハザードマップを作成した(191箇所/197箇所作成済み)。 ・防災重点ため池23か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した(豪雨:161/197箇所調査済み、地震:185/197箇所調査済み)。 ・「ため池サポートセンターぐんま」を開設(R4.4.27)し、県内の防災重点ため池の現地パトロール(40箇所)や相談対応(15回)を行い、ため池管理者に対して適正な管理手法について指導を行った。 【課題】 ・豪雨・地震における詳細調査において、安全性の低いため池の防災工事については、計画的かつ集中的に実施できるよう対策事業や事業主体の検討を行う必要がある。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

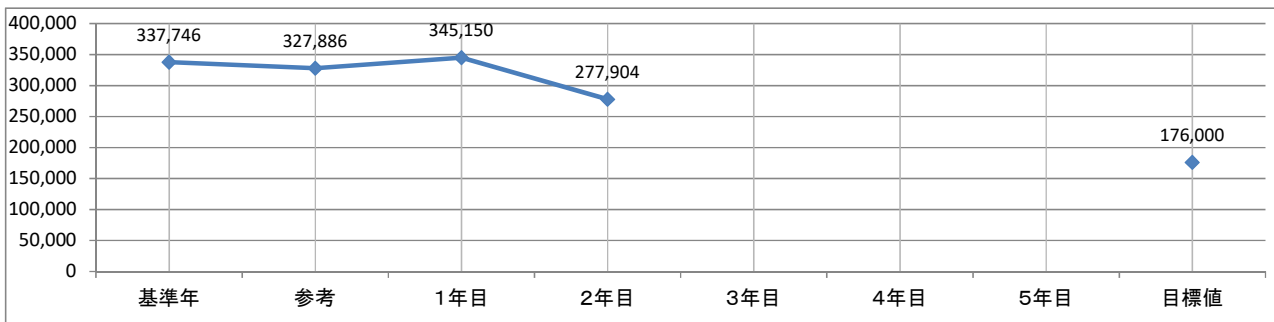
目標指標①		ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数							指標の単位	箇所
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	60	113	134	157					
計画		-	129	157						



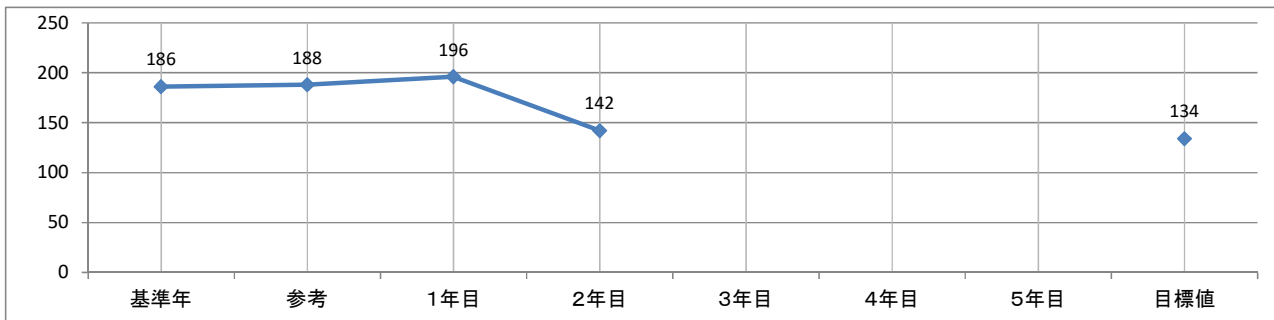
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱		魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】	
展開方向		官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化	
推進内容		①効果的な被害対策の推進と人材育成 ②地域の一体的な取組の推進	
担当課		技術支援課	
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。また、学識経験者等の意見を反映し、ニホンザル及びツキノワグマの次期計画を策定した。 嬭恋村に生息するニホンジカは広域に移動するため、ICT(GPS)首輪を利用し移動経路等の調査を実施した(4頭を追跡)。調査の結果、ニホンジカは農作物の栽培・収穫期(春～秋)に村内を利用し、冬期は隣接する長野県へ移動することが把握され、集中利用する移動ルートでの効果的な捕獲の検討が可能となった。 鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」を中部管内、西部管内及び吾妻管内において開催した。 地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で3地区、吾妻管内で2地区、東部管内で1地区の計8地区において実施した。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。 鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 嬭恋村を広域行動域とするニホンジカのICT(GPS)首輪等による生息状況調査により、移動ルート、捕獲適地情報を把握した。調査結果を踏まえ、群馬県・長野県境広域捕獲計画を作成し、R5に広域捕獲を連携して実施する。 豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木等の伐採等を行い、緩衝帯を整備した。 鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」7回、地域リーダーからの情報に基づき広域的な課題に取り組む指導者を育成する「地域対策指導者育成研修」1回、各対策を効果的に組み合わせたプランを作成し現地への技術指導を行う技術者を育成する「高度専門技術者育成研修」4回を開催した。 地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で4地区、吾妻管内で2地区、利根沼田管内で1地区の計9地区において実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> カワウ適正管理計画の期間満了に伴い、漁業関係者の意見を反映した改訂を進める必要がある。 生産者や地域住民の捕獲活動への体系的な参画を推進する必要がある。 豚熱にかかるイノシシ対策を引き続き推進する必要がある。
	R5 (3年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		野生鳥獣による農作物被害額							指標の単位	千円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	337,746	327,886	345,150	277,904						176,000
計画		-	227,000	212,000							



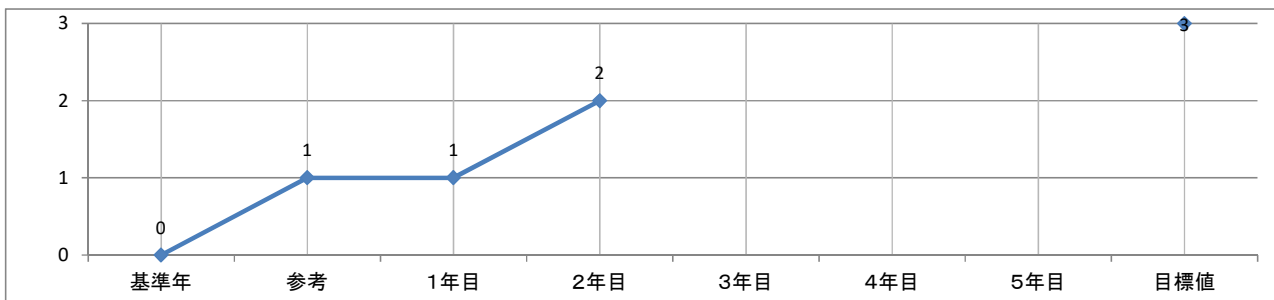
目標指標②		野生鳥獣による農作物被害面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	186	188	196	142						134
計画		-	165	157							



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】		
展開方向	「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の創出・拡大		
推進内容	①本県の固有の風土が培った地域資源の磨き上げ ②農村の魅力発信による関係人口の創出 ③特色ある農泊等の推進による関係人口の拡大・深化 ④関係機関と連携した農村への移住・定住の促進 ⑤多様な人材を巻き込むことによる地域コミュニティの活性化		
担当課	農政課、農業構造政策課、農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応援隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画を2本製作し、tulunosを活用して魅力発信をおこなった。 ・農泊モデル地区(農泊×キャンピングカー)の取組を、ぐんまグリーン・ツーリズム協議会において県内各地域にPRした。また、2地区目のモデル地区の実施に向けて、施設見学や聞き取り調査及び調整を行い構想を作成した。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応援隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農泊実践者インタビューを新コンテンツ「農泊を語る」としてwebで情報発信し、農村地域の魅力を発信した。また、農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画5本を、tulunosやイベント等で配信して魅力を発信した。さらに、2地区目の農泊モデル地区として「農泊×養蚕」モニターツアーを2回実施し、特色ある農泊の推進を行った。 【課題】 ・新たなコンテンツ「農泊を語る」において県内各地の取組を掲載し充実させることで、農村の魅力発信に努めていく。また、3地区目の農泊モデル地区の創出に向けて、農泊事業者等との連携が必要である。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①	「農泊モデル地区」の支援数							指標の単位	地区	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	0	1	1	2				3	
	計画		-	1	2					



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】		
展開方向	農村協働力(地域の絆)の深化による多面的機能の維持・発揮		
推進内容	①協働活動による多面的機能の維持・発揮 ②中山間地域の農業生産活動の支援		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保安全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業の計画地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う170組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保安全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業実施中地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う171組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。 【課題】 ・活動組織の構成員の高齢化により、取組を断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減、土地改良区による事務支援などを推進していく必要がある。 ・中山間地域における農業者の著しい高齢化により、協定継続を断念した組織が多かったことから、事務負担の軽減や他集落等との交流促進による活動支援を推進していく必要がある。
	R5 (3年目)		【成果】 【課題】
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①		農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積							指標の単位	ha
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	17,553	17,890	18,951	18,869					
計画	17,553	-	18,255	19,210						

